

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
宮城大学の知の体系	アンケート結果として、「他の学群の内容も知ることができたのがよかった」、「大学の理論がわかった」、「宮城大学の3学群の魅力や取り組んでいることを詳しく知ることができ、学習意欲が高まった。」、「入学してすぐは自分の学群のことですらよくわからなかったので自分の学群について理解を深められたのは良かった。」、「3学群すべての内容について触れられるという授業内容そのものがとても興味深かったです。先生方もそれぞれの講義内容・プロジェクトについて様々工夫してお話していただき、今後の学類選択等のヒントになりました。」などの評価された点は良かったと思います。ただ、今年はコロナ禍での遠隔授業であったこと、どこまで理解しているかの判断が難しかったと感じました。次年度は、対面授業で実施し、各学群の特徴をさらに理解していただけるような講義にして行きたいと考えております。
大学での学び入門	<p>【来年度の授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標到達度、難易・進捗適切性等の面で授業評価の平均値からみても肯定的な意見が多いと判断でき、前年同様に講義の実施内容については概ね問題ないものと評価する。また自由意見の中でも本講義内容が学修を進めていく上で有用であったとの意見も多く、来年度も、現在の授業計画をベースに講義を展開していく。</li> <li>・アンケートの自由記述の意見の中で、例年と同様に「宮城大学知の体系」「社会の中で生きる」等の他科目と混同している回答がみられた。この点はカリキュラム上の課題であると考え。</li> <li>・例年、教室内での私語の多さが問題となっていたが、オンラインでの実施によりこの問題は解消されたものの、学生の授業への参加実態は不明である。来年度もオンラインでの実施はやむないことが予想されるが、学生の授業参加を確認する機会を増やす等、工夫を図りたい。</li> </ul>
地域フィールドワーク	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載：良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に訪問することはできなかったものの、リモートで役場の方の話を聞くことができた点。</li> <li>・地域に目を向けるきっかけになったこと</li> <li>・他の学群と交流があったこと。</li> <li>・自分の調べたまちに関してとても興味を持つことができた。</li> <li>・初の試みで自分なりに一番スライド作りを頑張れた科目だった。オンラインで見に行った町についてよく知ることによって自分の住む町をもっと知ろうと思えた。</li> </ul> <p>→今年度は新型コロナウイルスの影響により、例年通りの現地調査を行うことができなかったが、自治体やゲスト講師のレクチャー・質疑応答を通じて、「地域を知ることができた」「実践的な学びが得られた」という意見が多数あった。「地域の課題や魅力への気づき・関心」の到達目標を達成できたと考え。来年度以降は例年通りのフィールドワークの再開を願いつつ、地域との関わりや深い学びを得られるようプログラムのブラッシュアップに取り組んでいきたい。</p>
スタートアップ・セミナー	<p>アンケートの設問全てが、50ポイント中30ポイント以上であり、基盤教育群の科目の中で最も良い評価の一つの科目であった。</p> <p>当初、遠隔授業(ライブ)を懸念していたが、学生と教員の距離は近いものになり、また教員及び学生が慣れない環境を克服し、新しい技術でありながらも、対面授業と比較しても、遜色のない授業どころかそれ以上の効果を上げた授業を行うことができた。</p> <p>今後は、対面と遠隔の授業を差別化することなく、教育効果で選択することができるという実績になった。また、遠隔が続くようであれば、今後はZoomのアカウントを担当教員全員に付与できれば、より柔軟な教育ができるようになる。今後改善することとしては、課題の質と量を検討することである。1年生の前期に、論理的思考をしっかりと身に付けられるよう必要であると考え。</p>
データサイエンス入門	<p>(太白Cのクラスから)講義の説明を工夫し、よりわかりやすい講義形式に工夫したい。</p> <p>(大和Cのクラスから)なるべくシラバス通りの進みになるように進捗管理して、最後駆け足にならないようにしたい。</p>
English Reading Skills I	<p>1 音読筆写など課題が多い。クラス間によって差があった。→今回は遠隔講義であったため、通常の対面講義に比べ提出課題が多く、またクラス間に差が生じた。遠隔講義であってもほぼ通常と同じように実施できることがわかったので、提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないように統一したい。2 課題や予習の指示は口頭だけではなく文書で行ってほしい。→課題に関してはteamsなどを用いて文書で提示する。</p>
English Self-Expression I	<p>授業外の課題は全学の平均点以上時間かかりました。学生が履修している他の科目宿題を考えながら、English Self-Expression 1の課題量を少し減少します。</p> <p>授業でグループワークがある場合、先生がオンライン機能でランダムに決めることにしますので時々同じパートナーとなります。</p> <p>各担当教員の授業の内容と進め方を統一する必要がありますので、再び担当教員が集まり、確認したいと思います。</p> <p>文法などをあまり気にしなくても良いから多くを語る、間違いは恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。</p> <p>授業マナーについて、履修生全員が授業に平等参加できる環境を作る。</p>
English for Academic Purposes I	<p>英語の課題が多かった→英語の課題の量が的確かどうかについて検討し、適量に調整する。テストの際に英文を画面上で見てもメモできずに解くのは大変だった→オンラインでの試験における様々な問題点を改善する。持ち込み可やメモ可など工夫をする。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
English Self-ExpressionⅢ	<p>学内講義の多くがリモートで行われており、当講義でも課題の多さが指摘された。</p> <p>成績の管理や講義の効果の維持するためのものであったが、生徒によっては負担が大きいようであった。</p> <p>これを遠隔講義を実施するうえでの教育上の課題と捉え、負担の改善に取り組んでいく。</p> <p>オンライン形式で自己表現スキルクラスを教えることは初めての経験であったが、ESEⅢの担当教員は緊密に協力し、頻繁にコミュニケーションを取り合い、クラス間で均等かつ標準化された方法でシラバスを効果的に実施した。</p> <p>学生がより多くのプレゼンテーションスピーキング練習を行い、お互いにコメントを話すことができるようなプレゼンテーション用の新しいビデオプラットフォームを有効活用します。</p>
Practical English	<p>授業で扱ったこと以外に更に付け加えると・・・</p> <p>コミュニケーションツールとしての英語力は正確さではなく、多発信を通しての意見の公約数的伝達である。すなわち、文法に間違いがあっても良い。多くを話しその中から意味をすくい取ってもらう。人前で英語を間違えることは恥ずかしいことではない。これらの前提をよく知ってもらうよう工夫をしたいと思う。このマインドセットのもとで講義で学んだ学習法を実際にクラス外でも繰り返し実行するよう指導していきたいと思う。</p> <p>メディアのなかから自分に必要な表現を釣り上げて、使えるようにする。これが本講義の特徴である。周りに沢山あるメディアを使い、実行すれば、必ず力が付く。そのあと押しを更に努力していく。</p> <p>課題も丁寧に活用してもらうため、時間に余裕をもって出来るように課していきます。</p>
中国語Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業マナーについて厳しく指導するようしていきます</li> <li>・課題の提出方法は具体的な指示を出します</li> <li>・授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです</li> <li>・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします</li> <li>・両クラスの学生人数のアンバランスを調整する</li> <li>・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫をし続けていきたいと思えます</li> <li>・使用テキスト以外から(中国語の社会・文化)にも様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思えます。</li> </ul>
韓国語Ⅰ	<p>【科目運営について】</p> <p>今年度の韓国語Ⅰは、オンラインでの実施となったため、非対面の環境で実施され、発音指導など語学授業の特性を踏まると如何に対面授業との差を埋めるのかが課題であった。学生ごとに通信環境が異なることもあり、個人々への発音指導や状況の確認が十分に行き届かず、今後可能な限り全体への指導の配慮ができるよう工夫していく予定である。</p> <p>【授業計画について】</p> <p>3つの到達目標の達成を想定して教科書の進度を設定する必要があり、実際の授業において学生全体の理解状況を確認しつつ進められるよう、適度なペースのものとして全体の計画を設定することが求められる。また、教科書の記述だけにこだわらず、必要に応じて学生の理解を助けるべく、教科書のほかに補助資料などを用いることで補足・解説も提供することも大事である。語学の勉強において、語彙・文法の理解は無論大事であるが、その背景にある言語文化の理解も大事であることから、日本語との対比およびそれにまつわる韓国文化や歴史の紹介・説明も併行して行う。さらに、良好な学習環境の形成には、単なる知識の伝達という方向のものではなく、学生自らが授業に対し興味を抱き、自然に溶け込んでいける双方向での実施が大いに影響する。そのことから、教員自ら常にフレンドリーかつ丁寧に学生に接し、時にはその場を和ませつつ、「真剣さの中にも遊び心のある授業」の実施を目指すことで、充実した時間に仕上げていくことを今後も目指していく。</p> <p>【事前・事後学修について】</p> <p>事前学修用として次回の授業に関する「補助資料」、事後学修用としてその回の授業に関する質問・感想への回答の「コメントペーパーへの回答」の2種類の資料を毎週配信することで、学習内容への理解を助ける。なお、適切に課題を配布し、可能な限り学生ひとりひとりへの添削指導を行うことで、学生自らが問題点などを認識し、正解にたどり着けるよう支援していく予定である。</p>
ベトナム語Ⅱ	<p>ベトナムの生活習慣に興味を持って履修する学生が多いようです。興味につながる学習意欲、発話意欲を伸ばすために、主教材に頼らずにいろいろな視聴教材(動画、絵教材)を使って授業を行いたいと思えます。履修生が文字語彙の知識をしっかり身につけるように、復習時間、小テストの時間。学生の発話時間を増加しようと考えています。文法についてはできるだけ履修生に予習してもらい、分からない項目は授業のなかの議論で明確にし、要点をまとめるなど、授業時間の使い方を工夫します。習ったものを運用できるという最終の学習目標を到達するには履修生の努力も求められます。</p>
Global StudiesⅠ	<p>授業は英語で行う関係上、履修生が慣れるまで少しずつレベル(話すスピード、語彙、など)を上げることにします。</p>
Intercultural Communication	<p>もう少し予習が応用できるようにします。</p> <p>ある程度、話していることに対して日本語訳を加えます。</p> <p>対面の授業になれば、もっと履修生の理解度に応じて授業が進める。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
日本の歴史と文化	<p>○授業計画や内容・教材等、授業アンケート結果では顧問とも含めて概ね肯定的に評価されているようですので、今後も講義の大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○一方で、授業目標の到達度や、知識習得・知的関心の喚起については、他のアンケート項目に比べていくぶん自己評価が低いように感じられますので、達成感や知的好奇心を感じられるよう、内容をブラッシュアップしていきたいと思います。</p> <p>○今期の講義は動画視聴による遠隔講義でした。その結果、視聴に際するペース配分や復習のし易さなどを理由に、デマンド型講義を肯定的に評価するコメントが若干寄せられています。知識の習得に際する繰り返し視聴の有効性を意味するかとも思いますので、対面授業の開始後においても繰り返し学習を可能とするような講義設計を検討していきたいと思います。</p>
世界の歴史と文化	<p>学生からのコメントをもとに、授業改善を行うのが慣わしであるが、遠隔授業の今学期は学生との距離感が近いものになり、いつもと異なるコメントがあったので、そのことを紹介するとともに、今後も引き続き自己研鑽に励む。</p> <p>【学生への心身の状況確認】 ライブ遠隔でカメラをオンにしてもらう授業のため、学生の状況がわかるつもりであったが、折に触れ生活を確認していた。それに対する学生のコメントとして「学生の目や疲労に対する配慮ができていて唯一の教授だった」、「先生が学生のことを気遣ってくれた」と肯定的な反応があった。今後も社会状況の変化に合わせ、学生の心身の健康状態を確認しながら、授業をすすめていく。</p> <p>【授業内容について】 「初めて歴史に興味を持つことができた授業でした。これまで歴史を暗記科目だと思っていましたが、山本先生の授業スタイルや考え方のおかげでその考えが薄まりました。むしろ歴史は人の感情が映し出された一つの物語だと感じ、覚えるのではなく考えて勉強するようになりました」・「東南アジアから日本を見る良い機会になりました」 歴史を物語りと捉えてくれ、また異なる視野から日本を見られるような学生を輩出できるよう、改善努力します。</p> <p>【授業環境】 ・熱意が良かった、・学生を飽きさせない講義がなされていた、・先生が面白くて興味が引かれることが多くて楽しかった。等のコメントがありました。対面ではなくともライブの授業だったので、学生の様子を見ながら授業を進めることができました。通常と異なる環境ではありましたが、学生と共に新しい技術を駆使して、共に良い授業ができたことを感謝します。</p>
東北の歴史と文化	<p>○授業計画や内容・教材等、授業アンケート結果では顧問とも含めて概ね肯定的に評価されているようですので、今後も講義の大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○一方で、授業目標の到達度や、知識習得・知的関心の喚起については、いくぶん自己評価が低いように感じられますので、達成感や知的好奇心を感じられるよう、内容をブラッシュアップしていきたいと思います。</p> <p>○今期の講義は動画視聴による遠隔講義でした。その結果、デマンド型講義を肯定的に評価するコメントが若干寄せられています。知識の習得に際する繰り返し視聴の有効性を意味するかとも思いますので、対面授業の開始後においても繰り返し学習を可能とするような講義設計を検討していきたいと思います。</p>
現代社会と哲学	<p>急遽、遠隔で講義を行うことになり、話が伝わるか心配でしたが、無事15回を終えることができ、安堵しています。</p> <p>遠隔なので、小話の数は極端に少なくなりましたが、喜んでもらえる学生さんがいたので、今後もネタ仕込みを怠らないようにしたいと思います。</p> <p>通信料が高くつくことと聞いたので、極力映像を遮断し、音声のみでお届けすることになりましたが、映像があったほうがやる気が起こるという意見もあったので、検討したいと思います。それにしても、90分ほどの(事実上)ラジオ講座によくついてきてくれたと感謝もすれば、集中力の高さに感服もします。</p> <p>課題はアクティヴラーニングを意識した問題設定になっております。面白いとの感想を頂戴し、励みになります。</p> <p>ヨーロッパの哲学を中心に授業を組み立てているので、ヨーロッパの歴史の話もそれなりに出てくると思いますが、学問は相互に関連合っていることを実感していただけるとよろしいかと存じます。</p>
人と宗教	<p>急遽、遠隔で講義を行うことになったので、宗教学一般の知見よりは個別の宗教を例年よりも少し詳しく教授したほうが分かりやすいのではないかと判断し、100頁ほどの「導入プリント」の頁数を倍に増やして対応することにした。しかし、突貫工事で作成したこともあり、固有名詞を中心に誤字があったことは慚愧の念に堪えない。</p> <p>「高校倫理」からの円滑的な移行を望む声があったが、この点は当方も授業を進める上で気になったので、6月に受験参考書を数冊買い込んで勉強した。その成果が現れるのは、後期以降になると思われる。</p> <p>なお、宗教学一般の知見を網羅的に論じたプリントもアップロードしたので、個人で学修していただければ幸いである。質問は常時受け付ける。また、特別講義をご希望ならば、コモンズの企画として対応したい。</p> <p>この授業は詰め込み授業である。というも、中途半端な知識は却って害毒であると考えているからである。後輩を含め、これからこの授業を受講しようとする学生さんに、この点をお伝え願えれば幸いである。</p>
心理学	<p>大人数の受講生がいる科目ですが、遠隔授業の方が一人ひとり、落ち着いて授業を受けることができたように感じます。ただ、受講学生が多い分、回線上のトラブルの不安もあるので、来年度以降、どのような形式の授業が好ましいのか検討が必要だと感じています。実際、動画像の提示は滑らかにできないところがありましたし、画像提示が増えると回線が不安定になる傾向が見られました。</p> <p>当初記述式のテストを想定していましたが、遠隔授業となったことから、2回のレポートを中心とした評価に変更となりました。「レポートが明確でない」というコメントがありましたが、どのようなことを問題として取り上げるのかも含めて理解度を評価しようと考えたため、あえて多義的なレポート課題となっています。</p> <p>遠隔授業のメリットも確認できましたが、音声や映像の乱れなどのトラブルもあったので、来年度以降、どのような形式の授業が良いのか検討していきます。</p>
現代社会の諸相	<p>改善点に「やる気が起こらなかった」との意見があったが、何が理由だろうか。もう少し詳しく教えていただけると、当方としても助かります。</p> <p>この授業は、詰込みのうえ、概念的思考を重視していますので、皆さんにとっては取っつき難い授業であろうかと存じます。皆さんの思考力の向上に貢献できれば、幸いです。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
憲法	<p>【良かった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントが見やすい。教科名が堅そうだなと思ったけど、先生がとつきやすい最近の話題などを授業中に入れてくれて面白かった。</li> <li>・国の体制や、法律について学ぶことができて、とてもためになった。説明が丁寧で、非常に分かりやすかった。</li> <li>・説明がとても分かりやすかった 難しい条文も先生の説明のおかげで理解できた 分野ごとに重要判例の紹介があり、とても理解の助けになった。</li> </ul> <p>⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。次年度も引き続き、受講生の皆さんにとって解りやすい授業を心がけます。</p> <p>【改善すべき点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの関係なので仕方がないが、もう少し省略した部分の講義も受けたかった。</li> </ul> <p>⇒受講生の皆さんが苦痛に感じないように話を短くまとめる工夫をしてみます。</p>
社会と経済	<p>「授業の要点・内容の整理」の評価が高かったので良かった。「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ったり、新聞等で報道されている中身を理解できるようになってほしい思っている。</p> <p>来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。</p> <p>以下学生からのコメントの抜粋です。</p> <p>「経済や社会に興味を持つきっかけとなった」</p> <p>「経済というものは普段からかかわっているはずなのに全然仕組みを理解していなかったなと感じさせられた。興味を持ったからもう少し勉強してみようかなと思った。」</p> <p>「はじめは難しいと感じていた経済学でしたが、身近な例や先生の実験などを交えながら教えてくださりとても興味が湧きました。」</p> <p>「身近に経済と関わっていることを意識することが出来た点。」</p> <p>「例が分かりやすく楽しい授業でした。」</p> <p>「配られる資料がとても分かりやすく、講義中の先生の解説も理解しやすくて悩むことが少なかった。」</p> <p>「こういう考え方もあるんだと視野が広がってよかった。」</p> <p>「現在の経済情勢と絡めながら教えてくださったので、とても理解が深まった。」</p>
数理科学	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・録画だったので理解するまで何度も見返すことができた</li> <li>・宮城大学に4年間通ったとして、これから使う知識ではないと思ったが、個人的には情報数学に興味があったので、開講してとても嬉しかった。</li> <li>・内容が整理してまとめてあった点</li> <li>・とても良かった</li> <li>・難しい内容をわかりやすく解説してくれた</li> <li>・話が面白く説明も分かりやすかった点。</li> <li>・オンデマンドでとても分かりやすかった。何より面白かった。</li> <li>・オンデマンド式だったことがよかった。</li> </ul> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出の期限が短く、急な体調不良で時間外受講になってしまったときの罪悪感があったので、もうちょっと期限を伸ばして欲しかった。</li> <li>・教科書の資料が多くてコピーできなかったところ。</li> </ul> <p>→コピー資料の配布などはオンデマンドのみの講義においては難しい対応が迫られた。デジタルデータだけで対応できるかなど工夫する視点を得たと思う。今後の講義改善に活かしていきたい。</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業でお疲れ様です、授業を受けていて楽しかったです。</li> </ul>
生命科学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントの返信で、他の皆さんの意見が聞けるのが参考になりました。</li> <li>・規則を守る人が損をしない講義だった。また、身近な事などに繋げて講義を進めてくれるので、印象に残りやすかった。</li> <li>・毎回面白い講義でよかったです。</li> <li>・moodle上でのディスカッションがあった点。</li> <li>・生命科学という新たな視点を得ることが出来た。</li> </ul> <p>【改善した方がよい点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にありません。</li> </ul> <p>【その他】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの先生の講義も内容や先生の話、全てが面白かった。</li> <li>・オンライン授業の方法を他の教科と合わせて欲しかった。システムの理解の方が授業よりも優先されることになり、授業に全く集中できなかった。</li> </ul> <p>→今回はZoomとMoodleを使用しました。初回時に、十分に時間をかけて、この方法を解説します。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
環境科学入門	当初担当予定だった教員が学外転出したため、令和2年度は非常勤講師を含む臨時体制での対応となった。令和3年度は再度担当者を組み直し、シラバスも新担当者が更新することになっている。科目の基本的な到達目標等は変わらないが、より現代の環境問題に即した内容となるため、いずれの学群の受講生であっても、さらに興味をもって学修を進めてもらえるものと考えている。来年度はできるだけ対面授業としたいところではあるが、引き続き遠隔となった場合も想定して、より効果的な学修につなげられるように、配付資料やスライド等を精査・再考することとしたい。期待していただければと思う。
地球と宇宙	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンドを使用し、生徒第一に動いていて、大変よい授業だと感じた。</li> <li>・オンデマンドは自分で速度を調整できるので、受けやすかった</li> <li>・図やイラストが使われるので中々理解できないような分野の内容でも理解することができた。</li> <li>・講義中に宇宙や地球のことについてのちょっとした小話が多かったのが面白かった。</li> <li>・小刻みにフォームズがあり、授業に参加していると実感することが出来たこと。</li> </ul> <p>→ ポジティブな意見をいただきありがとうございます。引き続き授業の進め方を工夫していきたいと思います。</p> <p>【改善点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>【その他、意見、感想、要望等の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学への関心が深まった、ありがとうございました。</li> <li>・オンデマンドが復習も出来て良かった。</li> <li>・ライブ、オンデマンドの入れ替わりが激しく、少し忙しかったが、レジュメが見やすく講義の内容の理解ができないということはなかった。</li> </ul> <p>→ オンデマンドでの授業を取り入れましたが、その点も好評だったようです。引き続き、ライブに加えてオンデマンドで復習の機会を設けるなどの工夫をしていきたいと思います。</p>
数学概論	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンドだったため、自分のスピードで勉強を進めることができたことです。</li> <li>・オンデマンド形式ではあったが、授業時間にteamsで会議を開いて質問を受け付けてくださった点</li> <li>・先生の説明が分かりやすかった。授業の内容も面白かった。</li> <li>・オンデマンド形式だったため、難しい部分では適宜動画を止め、きちんと理解しながら進めることができた。理論の説明も分かりやすかった。</li> </ul> <p>【改善したほうがよい点】記述が無かった</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <p>動画だけでなく、その日の授業に関する先生からのコメントも多くあった形式で、流れがつかみやすくとともに取り組みやすかった。</p> <p>→オンデマンドへの対応は概ね好評であった。良い点を対面授業においても実現できるようにすると共にオンデマンド教材との併用なども視野に入れて講義改善していきたい。</p>
物理概論	身の回りの物理の焦点を当て、その原理などを解説したが、おおむね好評であった。オンラインでの実施であったために、一部で実演できなかった項目もあり、次年度以降はオンラインでもできるように工夫を加えたい。改善点として、原子の内容も次年度以降組み入れることも検討する。
化学概論	<p>本年度、前期は特殊事情により対面授業が展開できず、オンラインにより遠隔授業を実施した。オンラインによる遠隔授業の場合、一方的な授業になりがちであるが、チャットなども利用しながら受講学生にできる範囲で参加できるように配慮した。また、各回ごとにアンケート等により、学生の進捗度をはかり、繰り返し説明するなど、対応した。</p> <p>次年度は、対面授業の実施を前提に計画を立てている。当該科目については、大学入学前の履修状況に学生間で差があるため、基本的な部分を中心に、わかり易い内容で授業を展開する。さらに、授業の中でもグループ単位で演習問題に取り組む時間を設けるなど、参加学生が自らの意志によって、学習に取り組む仕組みを導入する。さらに、事前・事後学習を促すため、ミニテストの導入を計画している。</p>
生物概論	生物概論は、専門科目になったときに役立つ内容を多く含んでいます。そのために少し難しいと感じたり、授業の到達目標に達していないと感じる学生も多いかもしれません。専門科目との連携をより明確にしていきながら、授業への関心を高めるように進めていきます。
健康科学	<p>心理学・食育・医学と立場の違う3名の教員によるオムニバス形式の授業なので、メリット・デメリットがあると思います。</p> <p>幅広く健康について学ぶことができた等のコメントがあり、オムニバスのメリットは発揮できていたと思います。</p> <p>今年度は、遠隔授業という通常とは異なる授業形式だったので授業改善計画を出しにくいのですが、事前・事後学修時間を増やす工夫が必要だと考えます。事前課題・事後課題での工夫になると思います。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
スポーツ科学	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【よかった点についての自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康について科学的根拠のもとに大切な知識を得ることができた</li> <li>・先生の熱心な姿勢が画面越しでも伝わりました。</li> </ul> <p>⇒ シラバスの内容をベースに、レスポンスカードの内容等からみなさんの興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしました。授業がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導(遠隔)を受けたりする等、行動変容につながった方もおり嬉しく思っています。次々と新しい理論や技術などが出てきますので、それらを踏まえつつ、今後も一緒に健康づくりができることを楽しみにしています。</p> <p>【改善点についての自由記載】</p> <p>記載なし</p>
スポーツ実技	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常のスポーツ実技の講義とはかけ離れていたのではないかと思います。リモートの良さを活かして、体(筋肉や骨)の仕組みまで学ぶことができたので良かったです。後半は実際に体を動かすことができたのも良かったです。</li> <li>・実技ではあるが、オンライン授業になってもしっかりと授業内容を工夫して進行してくれたため、飽きずに、興味を持って授業に取り組むことが出来た。</li> <li>・先生が面白く毎回楽しく学ぶことができたし、これからの自分の運動習慣なども考えたり、ダイエット、効果のある運動方法など幅広い分野の知識が学べる内容でとても良かった。</li> <li>・個々の到達度に配慮していた点</li> </ul> <p>⇒ 競技スポーツが苦手でも、工夫次第で自宅などでも楽しく科学的にエクササイズできることを多くの方に理解してもらえたようで嬉しく思います。授業が終了した後も、生活の中に定期的な運動を取り入れつつ、食事、睡眠などとの関連も踏まえた「自分に最適な健康づくり」に取り組んでみてください。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートだったこともあり、グループワークは真面目にスポーツ実技をやりたい人と、ふざけている人が混在していて大変やりにくかったです。後半の全体でカメラをオンにする形は良かったと思いました。</li> </ul> <p>⇒ 遠隔での実技は初めての試みでもあり、個人やグループで少しずつ試してもらいましたが、レスポンスシートではエクササイズや方法の好みが分かれていたため、様々な形式で実施してもらいました。どの形式で行ったかにかかわらず、自分にフィットするエクササイズを今後の健康づくりに活かしてほしいと思っています。</p>
体を動かす楽しみ	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでありながら、家でも出来るエクササイズを考えて行えたところです。</li> <li>・対面でやってこそその授業であるので、十分に楽しめたとは言えないが、その中でも先生が親身になって良くしようとしてくださっているのが感じられてうれしかった。</li> <li>・外で体を動かすことは出来ないままですが、効率の良いダイエットや筋トレなどどれも参考になるものばかりでした。</li> <li>・ZOOMのカメラをONIにしてみんなと体を動かしたのが楽しかった。</li> <li>・先生の気遣いが多くあった。</li> </ul> <p>⇒ 競技スポーツが苦手でも、また、自宅等の限られたスペースでも、各々にとって体を動かすことの楽しさを実感できるエクササイズのメニューが増えたようで嬉しく思っています。授業が終了した後も、生活の中に定期的な自分に合った運動を取り入れ、積極的に健康づくりに取り組んでみてください。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫食いになっているところはすべて口答だったので、聞き取りにくかったときに埋められなかったので言葉もつけていただきたいです。</li> </ul> <p>⇒ 遠隔だったので少しでもコミュニケーション要素を増やすため、音声やチャットで常時質問を受け付ける形式で進めてみました。次年度も遠隔だった場合は、この点がよりスムーズになるよう工夫していきたいと思えます。</p>
日本語Ⅰ	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。教科書の題材の多くは新聞記事からであり、多様なテーマを扱っています。この授業では日本の文化や政治、社会に関する幅広い事柄についての的確に伝えられるようになるため多くの表現練習をしました。日本語の発音については日本語学校ではあまり時間をかけて指導してもらえなかったのではないかと思います。日本人と話す際に誤解を生じさせかねないような発音上の誤りを意識させるために、発音上の問題点について度々指摘し、練習してもらいました。今ここで私が直さなければ、おそらく今後誰も直してくれる人はいないだろうとの思いからでした。今後も日本語での表現力の向上に重点を置き、授業を進めるつもりです。</p>
日本語Ⅲ	<p>今年度は「秀」を取った学生がおらず、「優」も1名だけだった、今年度の履修者は全般的に日本語力と日本語に対する学習意欲が低かったため、昨年度よりも一層ゆっくりとしたペースで授業を進めたが、これ以上進度を遅くすると、是非とも知っておいてほしい事柄をかなり割愛しなければならなくなる。来年度も学生の力と理解度を絶えずチェックしながら授業を進めたい。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(基盤教育)

科目名	授業改善計画
コミュニティ・プランナー概論及び演習	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載:良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に地域で活躍されている方のお話を聞けたのが良かったです。</li> <li>・実際にビジネスを展開している人のお話を聞くことで様々な刺激をもらうことが出来た。</li> <li>・ゲストの方を交えたり、ブレイクアウトルームを作ったりなど、楽しくできた。</li> </ul> <p>→実践の前段階として、実際に地域社会でコミュニティ・プランナーとして活動している方々の講話を設定した。そこから得られた知識だけでなく、彼らの姿勢や地域への想いを、コミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かして欲しい。来年度以降も地域活動の実践者の講話を設定していく。</p>
コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載:良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までのCP科目での活動を踏まえーから自分たちで決めることが出来る点。</li> <li>・リモート講義が多い中、地域の方々と関わる機会や外に出て活動する機会を設けてもらったので、楽しんで実習を行うことができた。</li> </ul> <p>→コミュニティ・プランナー科目の総仕上げにあたる本講義は、プロジェクトの検討にとどまらず、具体的な実践に重きを置いている講義である。地域の様々なステークホルダーと関わり合う過程で、コミュニティ・プランナーとしての資質を修得することを期待している。来年度以降も学生の主体的な実践に資する科目運営を行っていく。</p>

# 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
医療倫理学	<p>要望として、提出物の提出状況を速やかに知りたい旨の記載があった。今年度は、期日までに未提出の学生にのみ、担当の先生方から督促の連絡を差し上げ、提出をうながした。各回遅れて提出する者は2~3人、リピータが多かった。ほとんどの学生は期日までに充実した内容の提出物をしっかり送信提出した。次年度、遠隔講義の場合、提出物の期限内提出を徹底するよう説明を繰り返し、遅れた場合のみ担当の先生から督促があることも繰り返して説明する。映像資料、特に動画については好評なので、さらに最新かつインパクトのある教材を工夫する。</p>
形態機能学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野に分けて体の仕組みを知る事ができ、時には化学や生物などの他の授業内容とリンクさせているところが良かったと思います。</li> <li>・人体の仕組みを細かく知れたこと</li> <li>・体についての専門的な知識を学べるため、とても難しくても頑張ろうと思える。</li> <li>・細かい部分まで丁寧に説明して下さった。大事なところは資料で赤字や太文字になっており見やすかった。</li> <li>・授業のスピードが速くて、資料のどこを指して説明しているのかが時々わからない</li> <li>・画面のどこの部分を説明しているのかわからなかった</li> <li>・全体的に話が詰めすぎで情報量が多くわかりにくかった。あまり定着できていないように感じる。</li> <li>・掲載された資料以外の資料を授業で画面に出されると混乱してしまうので、すべての資料を掲載してほしいです</li> </ul> <p>回答:</p> <p>1 できるだけもっとゆっくり進めるよう努力したいと思います。お願いとしては、わからない時はすぐに質問してください。ダンマリを決め込む学生が多いのは非常に問題だと思います。</p> <p>2 私はmacを使用して講義を行なっています。windowsではパワーポイントに赤いポインターが出ますが、mac赤いポインターが出ません。説明箇所をうまく指摘できないことが私自身も感じており対応を模索中です。</p> <p>3 授業内容は、薄ぺらな教科書程度の内容ではなく重要な箇所を深く教えています。将来の国家試験レベルだけでなく、卒業後も現場で何らかの形で応用もしくは必要とされる考え方や知識を講義します。この点では、明らかに高校との内容と比べると大学の勉強は、はるかに内容が深く広く、難易度が上がります。また、内容を減らせば、その事項に関してもっとじっくりできますが、他は全く触れることがないので、自学自習のみで国家試験を受けるようなことにもなります。現在の講義の中でも、“この点は時間がないので省略する”と説明したことがあると思います。もっと内容を減らすのがよければ、そのように申し出てください。単純にどう勉強すればとなれば、まず時間を増やしてください。アンケートによれば1時間程度ですが、個人差があるとはいえ週に2-3時間は勉強してみてください。どうしてもわからない場合は質問を受け付けます。</p> <p>5 資料の枚数が多いのを敬遠するのを考慮しましたが、予備資料も今後アップします。</p>
形態機能学Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。課題レポートでもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
社会福祉学	<p>初めてのオンライン授業で、履修学生の皆さんには不安や苦勞があったと思います。毎回の授業では、社会福祉とは何か、社会福祉は私たちの暮らしのなかになぜ必要かについて考えることを意図していました。そのため、特に事前学修や事後学修において、暗記する要点や確認事項等が明確ではなく、学修を積み上げた実感をもてない学生さん多いと振り返ります。それについては、授業を通じてより明確に暗記事項や確認事項をお伝えすることにいたします。ただ、社会福祉は生活支援を学ぶ領域のために、唯一無二の個別事情や個別状況に対応していく領域のため、対応方法や関わり方、適用する法制度が一律ではありません。そのため社会福祉の学修では、何かを覚えることよりも、あれやこれやと思考を展開させる多様な視点の方が重要になる場合があります。授業では、履修学生のなかに十分に興味や関心をもてなかった学生さん多いと思いますので、その点は、もう少し双方向の授業が工夫できれば社会福祉に対する興味や関心がよりもてていただけたように思いますので、改善したいと思います。なお授業内容を可能な限り記載した理由は、2つあります。オンライン授業のため個々の学生さんの通信環境が同一ではなく通信環境が途切れてもその時間帯に学修が進められる点と、もし難聴等の学生さんや音声聞き取りにくい学生さんがいらっしゃる場合には、情報保障として話言葉の文字化が必要不可欠だからです。授業では、文字化した行間において福祉に関わる事象や法制度についてその都度、報道された内容も適宜お伝えしていますので、ただ文章を読んだだけの授業ではないと考えています。なお、社会福祉の必要性の根拠となる「〇〇」ですが、それがレポートの結論のため授業資料において明文化しておりませんが、毎回の授業時には社会福祉が近代社会に追加される不安に対応することを講義のなかで伝えています。特に、オンライン授業において学生間に通信環境の差異があると課題締め切りは可能な範囲で柔軟に対応しましたが、オンライン授業において学生対応が平等でないと感じられた学生さん多いと振り返りますので、特に締め切り等につきましては厳格対応いたします。</p>
保健医療福祉行政論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業のため、学生の反応のない中での授業展開となってしまったが、講義終了後の振り返シートを読む範囲では十分理解できていたと考えている。</li> <li>・講義資料の印刷等に負担がかかると考え、テキストを中心に講義資料を可能な限り少なくしたが、次年度も遠隔授業を行う場合は、事前に郵送することを検討する必要があると考える。また、講義資料の内容を再度検討するとともに、誤字・脱字がないように準備するように努めたい。</li> </ul>
学校保健論	<p>特になし</p>
病態学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメが見やすかったです。勉強しやすく情報がまとまっていました。</li> <li>・資料や講義が教科書と全く同じで分かりやすかった。</li> <li>・資料の構成(わかりにくい)</li> <li>・レジュメの字の行間隔をもう少し開けていただけると、より見やすいものになりました。</li> <li>・レジュメを印刷しやすいものにしてほしい。少ない色で作ってほしい。</li> </ul> <p>回答:行間隔をつめたスライドが一部あるのは、1スライドに共通した課題をまとめることと、資料の枚数が多くなり学生さんの負担にならないように配慮しました。”少ない色で作ってほしい”とのことですが、1つの課題スライドに複数の重要項目の相互関係の図示が必要な場合にわかりやすくするために色分けしています。資料等の希望があれば早めに具体的に講義後などに申し出てください。学生の希望も取りながら改善していきたいと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題を出してくれたことがよかった</li> <li>・課題レポートが多い 難しい</li> </ul> <p>回答:多くありません。難易度も専門としてはかなり基本的です。課題をこなせるくらいの学習時間は作ってください。アンケートによれば1時間程度の学習時間のようですが、大学では明らかに少なすぎます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりにくいところがあった</li> </ul> <p>回答:できれば、すぐに質問してください。ダンマリを決め込む学生が多いようです。</p>



## 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
疾病論Ⅰ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。課題レポートでもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
疾病論Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。課題レポートでもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
看護情報学Ⅰ	<p>良かった点                      グループワークが多くて楽しかった                      グループワーク                      質問表の結果などを先生が事前にまとめるといった工夫をしてくれたおかげで、グループワークがしやすかった。                      難しい点も多かったのですが、友達と協力しながら取り組む時間があり、お互いに助け合うことができました。                      グループワークが良かった                      毎週事前にポータルサイトを通して、次回の内容の説明や注意点を知らせてくださっていたので、助かりました。                      Excelの使い方を復習し、新たな知識を身につけることが出来た。                      グループワークを行ったこと。                      オンデマンド配信でも講義時間には会議を立ち上げ、学生の対応に当たっていた。                      →遠隔によるグループワークはもどかしい面もあったと思います。ただ、学生は早くから適応し、グループワークをこなしてもらったと思います。</p> <p>改善したほうがよい点                      もっと丁寧に説明してほしい                      グループワークへの参加度を評価するものは個別で提出にしてほしい。                      グループワークでの報告書作成が難しかった。                      →グループワークへの参加に関する資料はグループで自身がどれくらい参加したのかを確認する必要があるため、グループ単位での提出になることをご理解ください。</p> <p>その他、意見、感想、要望など                      グループワークが大変だった                      良いマイクを使っているからか、先生の声だけでなく、息遣いなどの音もマイクが拾っていた。あまり快いことではなかったので気を付けてほしい。                      報告書作成で、設問の分担者や質問票制作者の学籍番号の提出が求められていたが、報告書をメインでまとめる人の負担も考慮して欲しかった。オンラインのため仕事を分担出来ず、それぞれが持ち寄ったグラフや文章の文体を整えたりなどまとめるのにはとても時間がかかったが、その苦勞が先生に伝わることがない仕組みだったため、とんだ貧乏くじだと感じた。                      何のための授業なのかわからない。                      質問票作りは難しかったけれど協力して作り上げることができました。                      ありがとうございました。                      医療者としての情報の扱い方なども講義内容に取り入れていただけるとありがたい。                      →遠隔によるグループワークはもどかしい面もあったと思います。ただ、学生は早くから適応してもらい、グループワークによる成果物のクオリティは例年と遜色ないものと思います。                      →個々人の努力の程度が届かないという指摘ですが、グループ単位で作業についての担当者を記述する物を提出してもらっています。こちらは成績に反映させていますので、「努力が伝わらない」ことにはならないと思います。その資料に自身の貢献について記述されていないとすれば、それはグループ内でのご自身の発言によるものと思います。</p>
看護学原論	<p>今期はCOVID19により、対面授業が行えなかったが、レスポンスカードに対する学生の反応が良好で、講義に対する質問も多かった。このため、毎回講義の前半20～30分を前回講義の質疑、補充、課題についての解説にあて、理解の補強を行った。また、講義の録画についての要望も多く「繰り返し見た」という学生もあり、一回の講義だけで理解が難しい学生にとっては、講義録画は有効なツールである。一方、「録画がある」ことが講義受講の緊張感を緩めてしまうことも考えられる。このため、今後は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レスポンスカードによる質問の受付と共有</li> <li>・質問に対する回答を中心とした学習補充用動画の作成と配信</li> </ul> <p>を行い、これを事後学習の一部とする。                      また、今期もMoodleへの1週間前の講義資料掲載を行った。中でも、TEDや日本看護協会の動画資料などは学習内容のイメージ化に役立ったので、今後も積極的に活用していく。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
ライフステージ看護学概論Ⅱ	<p>○母性看護学に関して 今年度は、遠隔授業に対応するために講義資料をすべてパワーポイントに作り替えました。その際、昨年度の「結局何が重要なかわからなかった」との指摘を反省し、教科書を中心に据えて補足する説明資料とすること、また最新の情報を取り入れることに努めました。アンケート項目の全てで昨年度より評価が高まっており、対面と遜色なく実施できたことに安堵しています。来年度に向けては、どのような授業形態が必要とされても、対面授業と遠隔授業の良い点を活かすよう工夫していきたいと思います。</p> <p>○精神看護学に関して 今回の授業評価では「わかりやすかった」「前回の講義のレスポンスを紹介するスタイルによって、他の学生の意見を知ることができた」などのフィードバックをいただきました。精神機能の成長発達という目に見えにくい現象を皆さんにわかりやすく伝えるために、事例や当事者の言葉・体験記、動画を活用し、授業を組み立てました。また、Zoomのブレイクアウトセッションを活用したアプローチスキル演習を取り入れ、コミュニケーションを意図的に使うことで精神機能の発達が促進されることも体感できるように工夫しました。引き続き、対面でも遠隔でもわかりやすい講義を提供できるように工夫していきたいと思います。</p>
看護学研究法	<p>自由記述では、良かった点として「研究について知らないことが多かったので、基礎知識を身につけることができ、卒業研究を考える際に活かすことができた」「研究ごとに丁寧に説明されていてよかった」という記述があった。看護学研究法は研究の基礎的知識を身につけることを目標とする科目であり、自由記述にこの記述があることは評価できる。また、すべての項目について最高点が50点満点であることから、授業の工夫について学生の評価を得た授業であったことも確認できた。しかし、平均点は全授業の平均値よりも低く、「難しい」「もう少し分かりやすい表現や文章」を求める意見もあったために、さらに教材・授業方法について点検し、分かりやすい授業について検討していきたい。また、看護学研究法は、理解の差が生じやすい内容であることから、理解が難しい学生への支援も検討していきたい。</p>
国際比較看護論	<p>Covit-19の感染拡大防止のために、今年度は授業の変更が生じ、難民支援についての学修が行えませんでした。次年度は、難民支援についても学べるように準備をしていきたいと思います。</p>
救急・災害看護論	<p>本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると、ほぼ同様の結果であった。質問項目の「難易・進度の適切性」は全体平均値よりも高値を示しており、4年生の学習準備状況に沿った難易度が設定できたことが考えられる。今年度より、臨床現場での実践家である救急看護認定看護師を東北大学病院からゲスト講師として招聘し、救急看護の専門性を教授することを目指した。アンケート結果を確認すると、外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護を学ぶことができたと考えられる。また、今年度の心肺蘇生演習はペットボトル心肺蘇生演習キットを用いて、自宅学生と学内教員をオンライン通信しながら、絶え間ない心肺蘇生法の習得を目標に取り組んだ。アンケート結果から、「自宅で取り組めるように工夫できていて学びが深められた」「有意義であった」との意見があり、演習での取り組みが効果的であったことが伺える。一方で、「知識や技術、理論の習得に役立ったり知的関心が喚起された」は全体平均値より低値を示していた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン形式での知識提供により、教員側の準備が十分ではなく、聴講学生にとっては講義内容が単調と受け止められ、知的関心が喚起されなかった可能性がある。次年度、オンライン形式で講義を行う際には、学生の興味関心を高められるようなさらなる工夫を行い、改善していきたい。また、本科目の「授業計画のわかりやすさ」の回答平均値は、全体平均値に比べると低値であった。今年度の当初計画していた授業計画から変更が加わり、特に外部ゲスト講師の日程調整が困難であり、災害看護と救急看護、心肺蘇生演習の編成が変更となり複雑となってしまった。そのため、学生にとって、修正した授業計画がわかりにくいと捉えられた可能性がある。授業計画を変更した際には、学生の理解度に合わせた丁寧な説明が必要であると考えた。また、各講義時には科目全体の編成を明確に示した上で講義することで科目全体の中での講義の位置づけの理解を促していきたいと考えている。</p>
看護援助技術論Ⅱ	<p>今期はCOVID19により、対面授業が行えなかったため看護技術の演習部分に大幅な影響が出た。状況が例年と大きく変わるため、直接改善につながる内容は少ないが、以下については次年度に反映させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントの項目は             <ul style="list-style-type: none"> <li>事前・事後学修で自分の体を用いて確認できる内容</li> <li>対人で実施する必要がある内容</li> <li>モデルやシミュレーターで習熟する必要がある内容</li> </ul> </li> <li>に整理し、実施方法を変更・修正する。</li> <li>・事前、事後学習の量と内容を整理し、学生にとってつながりが見えやすくする。</li> </ul>
看護援助技術論Ⅲ	<p>今期はCOVID19により、対面授業が行えなかったため看護技術の演習部分に大幅な影響が出た。状況が例年と大きく変わるため、直接改善につながる内容は少ないが、次年度に反映させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの運営方法について内容と方法を検討する。</li> <li>今期はジグソー法を入れたが、学習内容を具体的な狭い範囲に限定することで講義以上の学習効果が期待できる。</li> <li>またホワイトボードやワードの共同編集などの活用を検討する。</li> <li>・途中で個人ワークを入れることで学生の集中力を維持できる。しかし対面での個人ワークはこれまであまり効果がなかったため、あらかじめワークシートを作成し講義と連動させるなどで参加せざるを得ない状況を作るなどの工夫が必要である。</li> <li>・演習項目のうちの一部は遠隔でもある程度学習可能であった。このことから具体的な技術演習のうち、実際にラボで演習しなければならない項目は何かについて精選し、体験項目数を減らして達成度を上げることも検討する。</li> </ul>
母性看護援助論Ⅱ	<p>講義資料を手元において学べるように送付したり、登校日にモデルの触診の機会を作ったり、演習では動画作成により臨場感を感じていただけるようにしたり、講義合間に映像を見ていただいたり、遠隔講義として十分に配慮を行いました。その点が評価されてよかったと思っています。ただし看護過程の課題については量的な問題も指摘がありましたが、これは実習における達成度を上げるためには必要なことでしたのでご了解いただきたく存じます。また遠隔操作で不慣れな点は心よりお詫びいたします。</p>
小児看護援助論Ⅱ	<p>この授業に関して、ご意見をいただきありがとうございました。 今年度はオンデマンドでの授業でしたが、音声聞き取りにくかったことはご迷惑をおかけしました。 今後も学生のみなさんの学びが深まるよう講義資料や演習内容の改良を行っていきます。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
成人看護援助論Ⅰ	<p>本年度4月以降に、COVID19の影響で対面授業中止、オンライン授業となったが、事例検討、グループワークはオンラインを活用して行った。グループで検討した内容の発表がオンライン上の掲示にとどまり、広い視野を持って学生が互いに学び合う機会が少なくなった。対面でのディスカッションによる思考を深めることは重要であり、来年度の授業では取り入れたい。授業アンケートの記述回答では、授業内容が浅い(簡単)と感じた学生がいたようである。1年の人間発学、ライフステージ看護概論Ⅰと重複する内容が多く、積み上げ学習ができている学生は物足りないと感じることも考えられる。看護の専門的知識を持って事例検討し、学修を深められるよう授業内容を精選したい。</p>
成人看護援助論Ⅱ	<p>授業については、「各授業の目標が明確である」「レジュメがわかりやすかった」「周術期看護に関連した物品を見ることができてよかった」との意見があったため、今後も、周術期の看護について具体的にイメージができるような授業の展開を行うこととする。また、遠隔授業の不具合が多かったこと等、遠隔授業に対する意見が多数あった。通信障害などの想定外のトラブルとして避けられないこともあるが、十分に事前準備を行い授業を開始するとともに、トラブル発生時は柔軟に対応を行っていくこととする。</p> <p>講義資料に関して、「オンライン授業になるのであれば、他の科目と同様に事前にまとめて講義資料を郵送してほしい」との要望があった。講義資料は、提示するデータが最新のデータとなるように入念に調べて作成していること、成人看護援助論Ⅲの学習との関連や、事前に行った授業との関連(復習項目等)を踏まえ、随時修正を行っていることから、全て事前に郵送することは難しいと考えている。一斉発送が難しいことやペーパーレス化についてぜひご理解をいただきたい。</p> <p>事例検討課題について、「グループワークを通して学びを深めることができた」「グループワークの時間を多く設けてくれた」「定期的なフィードバックにより学びを深めることができた」という意見の一方で、「各担当教員の指導内容の差があった」「フィードバックが少ない」との意見があった。事例検討課題では様々な意見があるが、今後も全体共有の時間を設けること、各グループの学習状況および指導内容について各担当教員と共有を行い、学習目標が到達できるように展開を行うこととする。また、Teams上の課題の提出について、日にちごとに分けてほしいという要望があったため、今後わかりやすく、提出しやすいように改善を行う。</p> <p>「小テストの復習がしたいので、問題を回答後にも閲覧できるようにしてほしい」との要望があったため、採点后閲覧できるように改善を行う。</p>
成人看護援助論Ⅲ	<p>すべての質問項目の回答は、宮城大学全授業の平均値よりやや低めの評価であり、特に、「学生自身の授業目標到達度」「難易・進度の適切性」「教材と説明の適切さ」が低い評価であった。教員による成績評価では、昨年度と比して大差なかったため、教員は学生の到達度が低いとは評価していないが、科目責任者の変更に伴い、学修目標・構成・内容の見直し、さらに、遠隔授業形式に伴う評価方法が毎回の課題への取組の積み重ねとなった経緯もあり、学生にとっては難易度が高い印象を受けたのではないかと考えている。また、自由記述内容から、課題の量が多い、毎回の課題に追われてこなすのに精いっぱい、課題への答えが提示されなかったこと、教員からの問いかけに対して答え合わせができなかったことが、学生にとって難易度が高い評価につながったと考えられる。課題の性質上、正解を示せるものばかりではないが、示せるものについては示し、自由記述課題の減点ポイントや不足点については全体に向けてフィードバックを行っていた。しかし、対面でないことから、学生の反応(=理解)を確認しながら、授業内での説明を追加・工夫したり、課題に対するフィードバックをしたりすることができず、学生の理解度に応じた授業展開が不十分な部分があったと推察する。教員側ももどかしい思いもあったが、申し訳なく思う。また、質問を受け付けるメッセージを繰り返し与え、学生からの質問にはすべて回答してきたが、課題の回答に対し、毎回、全員に、良いフィードバックをしたり、具体的なコメントをしたりして返却することは不十分であったことを教員の反省点として認識している。一方で、満足度としての反応は相対的に高く、自由記述内容にも、興味がわく内容、授業目標が明確、分かりやすい説明と資料、濃い内容、考え方を丁寧に解説してもらえたので振り返りになった、教員からの問いかけや他学生の意見を聴けて学びが深まった、工夫されていて楽しかった、という良い評価も受けている。本科目は、知識というより思考過程を学ぶ科目特性があることから、評価が二分していると考えられる。以上より、次年度は、授業形式や評価方法が本年度とは異なることを推察されるが、授業の進行中に学生の理解を確認しながら展開すること、課題に対するフィードバックを個別に丁寧に(良い評価を含めて)行うようにすることを改善点としたい。また、学生が知りたかった答えについては、そもそも、後期の臨地実習で解答が得られるものでもあり、その点を充分配慮、認識して臨地実習でファシリテーションしたいと考えている。</p>
老年看護援助論Ⅰ	<p>TEAMSによる新しい授業として、事前・事後学修とオンデマンドによる知識提供、そしてライブによるグループワークを毎回取り入れたことは、学生同士の学修意欲やアセスメント力を高めることに効果的であった。1年次のライフステージ看護学概論Ⅰ(老年期)からパソコン持参で電子書籍を使った授業を行ってきたが、今年度はTEAMS上に電子教科書を映写して解説できなかった(著作権の問題)。したがって、教科書の頁指定をしながらの解説となってしまう、電子教科書とスライドの2画面を見ることになり使いにくかったと思う。対面授業では改善できるので、さらに知識修得のポイントを示す教授法を工夫したい。またエクセルを初めて使う学生が多かったため、別のツールを工夫したい。</p>
老年看護援助論Ⅱ	<p>教材と説明の適切さについての評価が低く、教員作成の講義動画と電子教科書を併用して学修することの困難さについて指摘されていた。授業における電子教科書の活用方法について検討し、PC機能上2画面で展開できない学生でも困らないように対応を考える。また、説明力が不足しているアンケート結果であったことから、講義動画の作成に当たっては、重要なポイントが明確に伝わるようメリハリをつけた構成になるよう検討する。さらに、資料の事前提示について、ほとんどの授業日で前日には配信出来ていたがさらに余裕をもって配信できるよう準備する。</p>
精神看護援助論Ⅱ	<p>授業へのご意見をありがとうございました。講義内容に対する改善を求める意見はなかったため、今後もこのような内容で組み立てていきたいと思っております。</p> <p>【よかった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が分かりやすい。やる気が出た。</li> <li>・事例検討:丁寧にグループで話し合いながら確かめ合いを行い、それを全体でも共有できてよかった。</li> <li>・オンデマンド配信が多かったため、何回でも見られたし、自分が受けたい時間に受けられた。</li> </ul> <p>⇒ご意見、ありがとうございました。引き続き、来年度も学びを深められるように講義を組み立てていきたいと思っております。</p> <p>【改善点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習がしたかったため、レジュメの配信を授業日前にしてほしかったです。</li> </ul> <p>⇒ご意見、ありがとうございました。皆さんの予習時間を十分にとれるよう、配信時期について今後検討します。</p>
地域看護援助論	<p>授業評価の各項目において、回答平均値は全授業の平均値よりも低かった。平均との差が開いていた「授業の要点・内容の整理」について今年度の授業内容・方法を振り返り今後改善を図っていきたい。なお、本科目では、後期の「地域看護学実習」を想定してTeamsを用いてグループワークを実施した。積極的な意見交換が見られたが、対面でのグループワークに比べると十分な意見交換ができなかった可能性がある。</p> <p>自由記載の項目において、「改善したほうがよい点」の記載はなかった一方で、「良かった点」については「講義内容が非常に振り返りやすいと感じました」「興味がわく授業でした。実習が楽しみになりました」などの肯定的意見も複数寄せられた。より良い授業に向けて今後も検討をしていきたいと考える。「その他」において、資料の郵送の希望、オンライン授業の方法についての意見が寄せられた為、他の授業の方法も参考にしながら授業を運営する必要性のあると考えられた。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
看護マネジメントⅠ	<p>on-lineでの授業であるという大前提以上に、特に初期のころの授業配信の不手際や教員間の連携不足があったことを、あらためてお詫び申し上げます。</p> <p>本科目は看護管理に関する基本的な理論を学ぶと同時に、感染管理・医療事故防止・災害対策に関する組織的な管理について学び、それを後期からの領域実習全般に活かすための科目でもある。</p> <p>その意味では、授業内容に対する理解や授業への評価は概ね良好であったと考える。</p> <p>授業資料の配信・配布については様々な意見をいただいているが、全学生がPC必携であることや全学的なペーパーレス化の方針にも沿うものであることをご理解いただきたい。</p> <p>また、現物の資料を配布しないことにより、学生間に不利益や差が生じることはないような十分な情報公開をすることは今後とも一層注意し、実施していきたいと考えている。</p>
看護マネジメントⅡ	<p>本科目は、特別な理論や知識を教授するというよりは、最終学年として今後の自分の専門職としてのあり様に、どのように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。</p> <p>寄せられた授業評価は、多くが、そのような機会となったことや考えを深めるきっかけになったことを示す内容であり、学生の満足度も一定以上であったと推察する。</p> <p>毎回、何名かの学生をランダムに指名し、意見や考えの発表を求めるようにした。リモート授業が功を奏してか、双方があまり抵抗なく発言できたことや対面授業とは違う緊張感を保ちながらの授業になったのではないかと考える。</p>
在宅看護援助論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループワーク時間について 「グループワークの時間が短かった」という意見を踏まえ、時間の調整を検討する(例年は、看護過程の展開はすべてグループワークで展開しているため、グループワークの時間は今年度よりも長く設定していた)。</li> <li>●課題について 「課題が多く提出が目的になってしまう」との意見があったものの、後期の実習に向けて必要な課題と考えている。また、課題は初回授業時に提示し、取り組む時間を十分確保できるよう配慮しているほか、計画的に進めるようアナウンスしている。計画的に実施する力を高める機会と考え取り組んでいただきたい。</li> <li>●授業運営について(実施時間、資料印刷) ・「授業の実施形態(Live配信、オンデマンド)を他の科目と合わせてほしい」という意見については、科目特性(扱う授業内容や望ましい展開方法)も影響するため、統一できない事情があることも理解いただきたい。 ・「他の科目のように授業資料を郵送してほしい。すべての回を一括で郵送でも構わない」という意見については、印刷の判断は各学生に委ねており、印刷費用への配慮として、白黒印刷可能な配色としたことを授業時に複数回アナウンスしている。授業資料には直近の時事問題なども反映させているため、直前まで資料の修正を行っていることもご理解いただきたい。</li> <li>●レポートのコメントについて レポートのコメントが腑に落ちない場合には、授業アンケートに記載するのではなく、担当教員に直接質問して解決いただきたい。</li> </ul>
緩和ケア論	<p>本年度4月以降に、COVID19の影響で対面授業中止、オンライン授業となったが、事例検討、グループワークはオンラインを活用して行った。グループで検討した内容の発表がオンライン上の掲示にとどまり、広い視野を持って学生が互いに学び合う機会が少なくなった。発表資料は、学会でのポスター形式で作成したので、印刷して掲示する。授業内で持つことができなかった対面での意見交換を来学時に友人同士で行ってほしい。</p> <p>オンラインではあったが、緩和ケア病棟、がん専門病院で勤務するがん看護専門看護師の実践活動の講義を取り入れることで、様々な場での緩和ケアについて学ぶことができたと考える。実践現場で活動する看護師の講義は今後も取り入れていきたい。</p>
公衆衛生看護援助論	<p>授業評価の自由記載において「講義資料が非常に分かりやすいと感じました」「穴埋めがあり、ポイントをつかむことができた」など肯定的な意見が複数みられた。その一方、中間テストに関して改善が必要であるとの意見が見られた。遠隔で行われた中間テストであったため課題すべき点もあったと思われる。</p> <p>「授業外の学習時間の平均は1.11時間であり、全授業の平均値1.52時間より短かった。本科目を通して、保健師活動および公衆衛生看護に必要な知識や関係法規の最新の情報を確実に理解することに重きをおいている。知識の定着を図る上でも予習・復習は非常に重要であり、この点に留意して各授業時間に説明を行っていききたい。また、より良い授業に向けて一層の改善を図っていききたいと考える。</p>
公衆衛生看護活動論Ⅰ	<p>・遠隔授業の為、講義中に学生の様子を確認しながら進めることが難しいと予測されたため、講義後の復習を行いやすくするためにテキストを中心に講義を組み立て、さらに講義内容も精選して講義を展開したが、講義終了後の振り返りシートを読む範囲では十分理解できていたと考えている。また、その学びが演習にも反映されていたことから、次年度においても継続が可能と考えている。</p>
公衆衛生看護活動論Ⅱ	<p>授業評価の各項目において、回答平均値は全授業の平均値よりも低かった。地域診断について、公衆衛生看護の実践活動を踏まえた内容と、保健師国家試験に向け理解すべき知識(地域診断に関連する理論の理解など)の両者を学習できるよう配慮した。「良かった点」として「レジュメの内容がまとまっていて分かりやすかった」「資料がわかりやすく、国試のことも交えながら学ぶことができた」等の自由記載が寄せられたが、Teamsを用いた遠隔授業で使用教材に限られたこともあり、教授方法に課題があった可能性は否めない。また、グループワークをTeamsを用いて実施したため、対面でのグループワークに比べると十分な意見交換ができなかった可能性がある。</p> <p>地域診断は公衆衛生看護活動を展開する際の土台となるため、根拠に基づいた地域診断が実施できるよう、なお一層の授業改善を図っていききたいと考える。</p>
公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	<p>・遠隔授業のため、学生の反応のない中での授業展開となってしまったが、講義終了後の振り返りシートを読む範囲では十分理解できていたと考えている。</p> <p>・講義資料の印刷等に負担がかかると考え、テキストを中心にして講義資料を可能な限り少なくしたが、次年度も遠隔授業を行う場合は、事前に郵送することを検討する必要があると考える。また、講義資料の内容を再度検討するとともに、誤字・脱字がないように準備するように努めたい。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(看護学群)

科目名	授業改善計画
公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	自由記載において、「演習の準備期間がしっかりと取られていたので、準備しやすかった」「指摘等的確であり、わかりやすかった」など肯定的な意見がある一方で、「健康教育のチラシやパンフレットの見本がもう少し欲しかった」「健康教育について、遠隔であったこともあり、思うように資料が集まらず、時間が足りなかった」など改善に関する意見も寄せられた。今年度は、演習の一部を対面で実施することはできたが、授業の大半はTeamsによる遠隔授業であった。そのため、学生間やグループメンバー内で、十分に健康教育の内容を検討したり、教材作成の時間を確保したりすることが難かったと考えられる。このような環境においても、履修者の殆どが到達目標を達成していた。 本科目を履修した学生の多くは「公衆衛生看護学実習」において、住民に対して健康教育を実施することになるため、遠隔・対面に関わらず実践に即した健康教育、対象者の利益となる健康教育を確実に実施できるよう、今後も一層授業改善を図っていきたい。
養護概説	事前学修・事後学修のバランスを考え、授業回による内容や量の調整を図っていくことを検討する。グループワークでは、学生が主体的に参加できるよう、さらに工夫を重ねる。
健康相談活動	事前学修・事後学修のバランスを考え、授業回による内容や量の調整を図っていくことを検討する。同時期に実施される、「総合実習(学校看護)」の日程や内容の重なりを調整する必要がある。
教育心理学	比較的少人数でのオンラインの遠隔授業でしたが、回線上のトラブルが懸念されたため、双方向形式にはしませんでした。次年度以降、遠隔授業を行う場合は、一部双方向形式にしたいと考えています。最初の教職科目でもあり、教育全般についての関心を高める内容にしたかったのですが、遠隔授業となり実質上の授業時間が減少したことから、教育全般に関連させた内容はやや不足気味になりました。受容の要点・内容の整理について、回答平均値が比較的低目になっています。教職教養科目として幅広い関心・知識の修得が必要となるため、内容を整理し要点を絞るという方向性を取りにくい科目です。あらかじめ、理解しておいて欲しい用語や内容について提示することで補完したいと考えます。
教育の方法	最終学年の教職科目ということで、これまで教職科目で学んできたことの総まとめ的な意味のある科目として授業を行っています。養護実習についても意識し、養護教諭以外の教諭の職務についても理解できるような内容にしています。可能な限り、学校現場の問題を絡めた講義内容にしていく予定です。

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
地域政策概論	毎回、前回の講義に関する小テストを実施しますので復習を行ってください。また授業の理解を深めるため最初に配布するサブテキストの当該部分について必ず予習してください。
ビジネスモデル論	すべての授業をオンラインで行った。授業準備には対面以上に時間がかかったが、授業内容的にオンラインにも適しているのかもしれない。COVID-19の感染がいつ収束するかは、今のところ不明であるが、今後もオンラインに対応できるようにしておきたい。授業時間には限りがあり、中間発表会と西遊発表会では、全員にBMCを発表していただくことは出来ないが、他の学生が作成・発表したBMCからも多くの人に学修していただけるようにしたい。
ミクロ経済学	学内平均より低い項目について、言及したい。「知識や技術、理論の習得に役立ったり、知的関心が喚起」が学内平均より低かった。ミクロ経済学はある程度抽象的な計算モデルで学習しているが、それが現実の経済を見るときにどのように応用できるのかをきちんと伝え、知的関心が喚起されるように工夫したい。「授業の到達目標に対するあなたの到達度はどの程度か」も低かった。遠隔講義となり、ペーパーの課題のやり取りに変わりFormsでのやり取りとなったが、フィードバックの質が落ちている可能性があり、今後も遠隔講義が続くようであれば工夫したい。 なお、期末試験は対面でペーパーテストを行いたかったが、通学を希望しない学生が多く、ウェブテストになった。時間制限の試験の回答送信が数秒遅れても問題ないことは伝えていたが、「テストの際に、1秒でも時間をオーバーしたらいけない」と勘違いしたコメントもあった。また、「最後の期末試験が十数分ごとに小分けしたこと」への不満もあったが、ウェブテストのため不具合があった際に再試験がしやすいようにこのようにしていた。実際に対象者が出たが、十分程度の再試験で済んだ。これらの事情があって小分けにしたことをきちんと伝えるようにしたい。
地域調査法	授業評価アンケートの結果から、複数のゲスト講師による講義により、講義内容が多岐にわたり幅広く学べると好評を得ている。また、受動的に講義を聞くだけでなく、学生自身で課題に取り組む場を設ける講義設定も多くあり、Webをはじめとする様々な情報源を駆使して自身の住む街に関するデータ等を得て、それを次のステップにどのように活用するかなど、学生に対して具体的な学修状況の場を提供できていると考えられる。しかしその一方で、フィードバックシートに関しては課題が多い等の要望もあるが、講義の性質上、たんなる座学により、知識を聞くだけでは、当該講義の趣旨を満たすことができないため、来年度についても今年度と同等の課題を課すことにするが、その方法などに関しては、新たな検討を行うこととする。 今年度初めて実施した遠隔授業の弊害として、外部講師・ゲストスピーカー含め、全教員及び全学生が不慣れなために操作等に慣れるまでに時間を要した点がある。また、大人数の講義の為学生側がミュートおよびカメラも切っていたため学生の反応がわからない、こちらの意図も伝わりにくいという部分が多かったが、遠隔にも慣れ、今後、遠隔授業が続く状態においても、より良い講義体制を取ることができると考えられる。
データサイエンス	内容的には、問題無いと自負している。ただし、適切な成績評価とその効率化、さらに教育法の改善を心がけたい。教材の改善も。
応用統計処理	授業アンケートへのご協力、有難うございました。 ・講義およびスライド資料がわかりやすく、説明が丁寧であったといった意見を多く頂きました。1年次から学んできた統計に関する知識の定着度確認を念頭に置くとともに、問題や課題に応じて自ら分析手法を選択・展開できるようになったとの感想を頂いたことから、「データの解釈」と「統計データの整理」といった到達目標も達成できていると考えています。引き続き、次年度もよりわかりやすい説明と資料づくりを心がけ、上記の学びを深められるよう努めていきたいと考えます。 ・約210名が一斉に学ぶオンラインによる遠隔講義であったため、学生個々の理解度に対するバラつきは大きいものがあったと感じています。毎回、練習問題を複数用意するなど、学生個々の理解進度の違いについても配慮するよう努めたつもりではありますが、今後さらに改善・工夫を検討していきたいと考えています。

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
キャリアデザインⅡ	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のフィードバックを通じて、自己分析の手法などを学ぶことができました。今後就職活動で参考にしていきたいです。</li> <li>・自分の未来像の把握に非常に役立った。</li> <li>・質問をすると必ずお返事が返ってくる。キャリアプランニングプロセスという手法をしたこと。</li> <li>・オンデマンド方式は授業の時間外に見ることができて便利だった</li> <li>・見出しへの解説で、社会人である先生の視点のご意見を聞けた点</li> <li>・時事問題について知れた。自己分析ができた。</li> <li>・自分の進みたいキャリアを見つめなおすきっかけとなった。</li> <li>・インターンシップの講義と同日だったため、オンデマンドで受けれるのは自分のペースで集中して受講できるのでやりやすかった。</li> <li>・オンデマンド授業だったので、ほかの授業の課題状況などを踏まえて好きなときに視聴できた。</li> <li>・毎回自分を振り返る時間を設けてくださったことで、自己理解が進んだ。</li> <li>・streamでの配信など、生徒の状況をよく見ていると感じた。</li> <li>・現在の社会情勢と繋げながらの講義内容になっていたため、キャリアデザインについて学ぶ重要性を再確認できた点。</li> <li>・オンデマンドだったため、好きな時間に講義を受けることが出来たこと。</li> <li>・唯一オンデマンド形式で時間のある時にまとめて行うことが出来る授業がとても良かった。集中して取り組めた。</li> <li>・オンデマンド授業、課題の期限までの余裕をもって設定してくれたこと</li> <li>・将来の進路について試行錯誤する時間や機会を設けてもらった点がよかった</li> <li>・オンデマンドであったため、忙しい生徒にとってもありがたかった。</li> <li>・オンデマンド型にして課題を設ける形にしていたのは素晴らしいと思った。</li> <li>・オンデマンドは早送りができるし好きな時間に見れるのでよかった</li> <li>・動画配信での授業だったので、自分のペースで受講できとても良かった。先生の対応や動画内での説明が丁寧だった。</li> <li>・ニュース記事を読んで自分の考えを書くという課題で、コロナ禍について考える機会になりました。</li> <li>・インターンシップや就職活動をするにあたって、この授業で学んだことが生かされていると感じる。</li> <li>・オンデマンドのため余裕のあるタイミングで講義を受けることができた 課題が実践的だった 新聞記事紹介で社会を手短かに理解することができた</li> <li>・課題を通して自分の将来を具体的に考えることができてよかった。少しイメージがはっきりしてきた。オンデマンドなのが何より良かった。</li> <li>・オンデマンドでしたが非常に分かり易かったです。</li> </ul> <p>⇒将来に役立つ内容だった、分かりやすい進め方だったという意見を多数いただきました。キャリア形成において大切な「自己理解」について多くの学生に理解を深めてもらえました。コロナ禍におけるキャリアデザインの方向性を考える機会を提供できたようで嬉しく思います。</p> <p>【改善点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の問題文が少しわかりづらいときがあった</li> <li>・新聞をただ読んでいだけで、就活の根本的な部分やノウハウを教えてくれない</li> <li>・フォーマットが書きにくすぎる。エクセルよりワードの方がいいのではと思うことが何度かあった。また学生向けではないものを引用しているのか答えようがない項目が多く戸惑った。</li> <li>・内容に若干の物足りなさを感じます。</li> </ul> <p>⇒キャリアデザインⅠと同様「自己理解」をメインテーマとしているため違いが分かりにくい内容になってしまったかもしれませんが、キャリア・プランニング・プロセスなど専門性の高い学びもあったと思いますので、更に専門性を増すよう検討します。より分かりやすい内容にできるよう努めます。</p>
インターンシップⅠ	<p>多様な有力企業による講義を中心に、現実的なビジネスの世界や働くということをイメージできるようにしながら、2年生からインターンシップの内容や意義を具体的に理解し、自ら機会を見つけて調整できるように講義を運営する。</p>
ゲーム理論	<p>学内平均より低い項目について、言及したい。「難易・進度の適切性」が学内平均より低かった。ゲーム理論は高校の理系数学の範囲まで必要で、講義内に説明するように努めた。普段はホワイトボードで学生が実際に解くということをしていただけ、今期はppt上で共有する形となり、時間の関係でその回数が少なくなった。今後も遠隔講義が続く際は、工夫したい。「授業の到達目標に対するあなたの到達度はどの程度か」も低かった。遠隔講義となり、ペーパーの課題のやり取りに変わりFormsでのやり取りとなったが、フィードバックの質が落ちている可能性があり、今後も遠隔講義が続くようであれば工夫したい。</p> <p>なお、期末試験は対面ですべてペーパーテストを行いたかったが、前後の消毒時間も90分の実施が不可能であり、一部を事前のウェブテストで行った。「時間がなく足りなかった」への不満もあったが、今後も遠隔講義で実施する場合は、バランスを見直したい。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
地理情報分析	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで学生の進捗状況に合わせて講義するというのはとても難しいことだと思いましたが、スピードが速すぎたり遅すぎたりということがなく、適切なスピードでした。説明もわかりにくいという場面はほとんどありませんでした。</li> <li>・作業時間を多くとったり、チャットを活用してくださり、できない人へのケアをしっかりと行ってくれた。</li> <li>・対面講義の方が良いと思いますが、録画の講義だと止めることが出来て作業しやすかったです。</li> <li>・講義内容とオンデマンドが学習方法にマッチしているように感じた。遠隔であればオンデマンドが良い。</li> <li>・繰り返し操作を言ってくれたので、聞き逃してもついていくことができた</li> <li>→ 繰り返し自分のペースで復習できるというオンデマンドのメリットもあったように感じます。対面講義になっても授業を録画して復習に使ってもらうことを検討したいと思います。</li> </ul> <p>【改善点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面でやりたい → 来年度のコロナの状況によりですが、可能であれば対面で実施します。</li> </ul> <p>【その他、意見、感想、要望等の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・gis難しく不安でしたが講義後に指導の時間をとっていただけただけで理解をすることができました。</li> <li>・難しい内容だし、オンライン講義のためわからないことがあっても上手く伝わらないところがあった。対面授業向きの講義だと思った。半年間ありがとうございました。</li> <li>・今回が特殊ということもあったが、オンデマンドの際は取り組みやすかった。</li> <li>→ この講義は学生の進度に差が出やすい講義であるため、フォローできるような体制を引き続き考えていきたいと思います。</li> </ul>
多変量解析	<p>演習については、なるべく対面で実施するようにしたいと考えている。また、課題のフィードバックを工夫するなど、より理解を深めてもらうため工夫を試みたい。</p>
キャリア開発Ⅱ	<p>全体的に質の底上げが出来るよう努めて参りますが、特に下記3点の改善に注力したいと考えます。 (受講学生の視点から、ニーズが強いと思われるものにフォーカスしています)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 興味関心を持ちやすい題材やテーマを取り上げること ※最近のニュースやトピックスを取り上げることや、受講学生の今現在の悩みや迷いを講義時にアンケートを実施して確認し、リアルタイムで助言することなどを想定。</li> <li>2) 一方的な説明を減らし、ワークやコミュニケーションを増やす ※Formsを利用したワークの実施や、講師との直接の質疑応答などを想定。</li> <li>3) 目標に対する学修到達度を上げる為の工夫 目標への到達が就職活動の成功に直結するように、予習課題・講義内容・ワーク内容を用意する。 難易度があまり高くないところからスタートし、徐々にレベルアップしていくよう配慮。</li> </ol> <p>なお、キャリア選択をする上では様々な意見や視点を受講学生の皆さんに持って頂く必要があると思われる。また社会に出て仕事をするための、リアルな側面を知って頂くことも必要と思われるので、その為に外部講師をお呼びして実施する講義を実施していきます。またそれが、上記1)の課題解決にも繋がるものと思われる。</p>
情報と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はオンライン授業への変更になったことから、板書により説明していた部分をスライド資料に切り替える等の対応を取るとともに、オンライン向けの新たな体験素材を提供する等の工夫を行った。授業評価による平均値は昨年度に比べ全体的に若干向上しており、それらの成果であると考え。</li> <li>・期末試験成績に基づく学修理解度も概ね良好な値であり、また成績分布も優を中心とした分布となったことから、学生の理解度は昨年に比べても向上したものと判断する。次年度も引き続き、レベル調整を進める。</li> <li>・オンライン授業での実施により、教室環境の問題で板書を使うことができないなどの問題は解消されたものの、逆に学生がノートを取る等の能動的な学修が難しくなったことも課題である。引き続き、授業内での演習素材の提供等、学生が学ぶことを重視して改善を図りたい。</li> <li>・授業評価の自由意見では、内容が新鮮、専門的で興味につながった等の肯定的な意見がほとんどであるが、課題が多いことや使用するアプリがわかりづらい等の点が問題として挙げられている。引き続き、改善を図りたい。</li> </ul>
色彩と形態	<p>これまでの授業をオンライン対応させるため、学生の皆さんと授業のシステムを作り上げることができました。デザイン領域への興味を広めるだけでなく、各自が目指す専門性を見つけられるようにも心がけました。学生からの反応も概ね好評でしたが、理論的な内容を求める声があったため、来年度はよりデザインの理論的な側面も取り入れ、研究につながるような内容に調整していきます。</p>
価値創造デザイン演習Ⅰ	<p>教員としても初めてのオンライン型演習でしたが、様々な工夫と試行錯誤の結果により、これまで以上に良い学びの場を提供できたと考えています。しかしオンラインであるがゆえに、学生への直接的なアドバイスがしにくい状況が続きました。来年度はより一人一人への指導が行き届くような運営を目指します。</p>



## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
ビジネスプロセスマネジメント	3年生前期ということもあり、ビジネス全般や企業経営についての知識がまだまだ不足しているため、今年度は最初に基本的な経営学の考え方を整理した。今後もそのようにする予定である。また、実際の経営者の講義や事例から、ビジネスの構想から実施プロセスについての現実的な理解を深められるように解説する。
会計学	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、引き続き、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
経営財務	<p>授業の進行や毎回の演習課題、期末試験などに関して、総じて好評価をいただいている。演習課題に、自分の意見を述べるものも組み込んだ点も、評価するコメントが寄せられている。学生の受講姿勢、課題提出なども良好であり、受講者の協力に感謝したい。</p> <p>期末試験の内容は、授業で扱ったことの理解度を確保するものになっており、難易度が高かったわけではないが、遠隔試験であることに鑑み、事前理解をきちんとしていないと時間的に間に合わなくなる内容としたため、一部に難しいと感じた学生がいたようである。ただ、総じて期末試験の出来はよかったため、期末試験の方式につき、学生への告知を強化する方向で対応したい。</p>
人的資源管理論	本年度は新カリキュラムの2年目であり、講義内容、評価方法について、基本的な変更は予定していない。講義形式については、基本的内容を10%程度削減して、オンライン授業の対応として、主要項目の間にさらに余裕を持たせる。昨年度、本年度と同様、最新の理論、事例、教育メソッドを積極的に導入することで、大学生に本来求められる知的好奇心を喚起して、修学意欲(モチベーション)を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的に、これまで以上に真摯な授業実施・展開を志向する。第1回授業において、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を周知徹底して、特に「評価方法」「評価基準」をより強く再確認させることで授業の説明責任を果たすとともに、学問に対する取り組みの成果として「学習メカニズム」構築と、3年次後期以降の「キャリア形成」における主体的行動に対して、十分な配慮をする予定である。本年度、「事前に、次回の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」について受講生に説明したものの、十分な水準とは確認されていないため、次年度はより意識して、授業の最初の部分と最後の部分で、この2点を周知徹底する予定(各5分程度)である。また、本授業は大学における専門科目であることを正しく認識させて、不見識な態度、欠席、低クオリティ・レポート、日本語表現能力の欠落など、学問に対して真摯に取り組むことへの逆機能・阻害については、一貫した対応を実行する。
経営情報管理	3年生前期ということもあり、ビジネス全般や企業経営についての知識がまだまだ不足しているため、「経営情報」面からの説明だけではなかなか理解が進まないため、より基本的な企業経営の事例などを引き合いに出しながら解説する。
都市と文化	建築士指定科目でありながら、全学類の共通科目となっており、すべての受講生の関心事に寄り添うことは難しかったが、Moodleを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことで、一定の評価を得たものと理解しています。次年度は、科目の実態によりいっそう即すことを目指し、シラバスの改訂を行う予定です。
行政学	毎回、前回の講義に関する小テストを実施します。授業は対話を中心に進めますので、毎回配布する事前学習資料について、必ず予習するようにしてください。
社会的共通資本	<p>【自由記載:良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する機会があるのは、自分の考え方も広がるので良いと思いました。</li> <li>・毎週他人の意見を聞いて自分のアイデアに取り込むことが出来た。</li> <li>・受講前は全く知らなかった社会的共通資本という概念について、講義と実践を通して深く学ぶことができました。講義だけ、または発表だけというものではなく、双方がバランス良く取り入れられていたことで、それぞれの回で得た学びを自分のアイデアに還元することができました。</li> <li>・毎回時間を区切って、何をするかはつきりしてくれたことが良かった。</li> <li>・地域を見つめ直すことができました。</li> </ul> <p>→本講義は3年前期の専門科目として、基礎理論を応用し、講義と事例分析、ディスカッションを通して、実践的な知識を身につけていくことを目的としている。そのため、講義では、様々なワークに取り組み、実践的なアクティブラーニングを行っている。今後の課題としては、限られた講義時間の中で、より多くの学生に発言する機会を設けることができるよう、さらに、改善をしていきたい。また、来年度は、講義で習得した地域への視点を今後の卒業研究や社会活動に活かしていくための助言も増やしていきたいと考えている。</p>
計量経済学	質問の仕方については、Teamsのコメント欄に寄せるよう初回講義で明言し、毎回の講義配信時にも「質問はこの下欄に記入するよう」明記していたものの、直接質問が出来ないと勘違いしているコメントが複数みられた。この点については指示がより明確に伝わるように改善したい。なお、Teamsで寄せられた質問には全て返答していますので、質問を行った人は確認をしてください。

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
地域産業政策	この授業に関して、良かった点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言機会が豊富だったため、集中して取り組むことができた。</li> <li>・外部講師による講義が多く、より具体的なお話が聞けたこと。</li> </ul> →4年次の配当科目ということもあり、これから社会に出て行く上で必要なリアリティも意識した授業内容にするため、第一線で活躍する外部講師を招聘した。また、オンラインということもあり、対面授業よりもアクティブになるような運営方法を工夫し、ほぼ毎回の学生の発表、質疑応答を実施した。今後とも内容の改善に取り組んでいきたい。
地域環境政策	4年生の科目で、社会人として働く直前の学生として学ぶとよいであろう民間企業の実務の視点での環境ビジネスや環境政策についてレクチャーをしていただいた。その結果についての評価は定かではないが、講義時間中の議論の様子などからは継続して行うこともよいと考えられるため、ゲスト講師による実践については今後も取り入れていきたい。
行政評価	事業構想学群における評価、政策評価や行政評価を学ぶにあたり、ワークを多めにしたが、そのケースやデータのセッティングをより明確にすることで評価の議論が深化すると考えられるため、そのあたりの工夫を行いたい。
社会起業論	本講義は、アントレプレナー系の科目の最終段階の位置づけがなされている。その点を踏まえ、より実践的なスタートアップの手法を取り入れ、ソーシャル・ビジネスモデルの設計に取り組んでいる。その過程で、東日本大震災で活躍した複数の起業家の実務事例のレクチャーを取り入れ、起業家とのディスカッションを通して、モデルのブラッシュアップを図った。昨年度における実学プログラムでの試行をもとに、いくつかの改善点はクリアすることが出来ていた。一方で、構築されたビジネスモデルには改善の余地がみられたことから、事前事後学修の再検討、中間でのモデルの確認を図ることを改善点として提示する。
防災計画	事業構想学群の防災計画として、防災や復興に資する事業計画を講義に盛り込んだ。この取り組みは評価を見る限りはよかったと捉えられそうであるので、今後も継続して行いたい。
民法	<p>【良かった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦遠隔でも支障なく授業を受けることが出来た。</li> <li>◦定期的に小テストを行い、知識の定着を図っていた点。</li> <li>◦説明が丁寧で分かり易く、ただの暗記科目ではなくしっかりと内容を理解し解釈できる講義でした。教材も適切でした。</li> <li>◦いつものように説明が分かりやすかったです。</li> </ul> ⇒民法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。次年度も引き続き、受講生の皆さんにとって解りやすい授業を心がけます。
	<p>【その他、意見、感想、要望など】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦教科書の内容もしっかりプリントにまとめられていたので教科書はいらないような気がしてしまいました。読み物としては面白かったです。</li> </ul> ⇒教科書の内容と連動した説明を心掛けたいと思います。
公法	<p>【良かった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦凄く難しかったが、先生は丁寧に説明してくれた。</li> <li>◦全てが良かった。</li> <li>◦遠隔でも支障なく授業を受けることが出来た。</li> <li>◦定期的に小テストを行い、知識の定着を図っていた点。</li> </ul> ⇒行政法および税法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。次年度も引き続き、受講生の皆さんにとって解りやすい授業を心がけます。
	<p>【改善したほうがよい点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦チャットの声に気づいてほしい(録画忘れなど)</li> </ul> ⇒遠隔操作に不慣れなところがありましたので、以後気を付けたいと思います。

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
水資源利用学	<p>良かった点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書が与えられ、読み、興味のあることをまとめるという形だったので必然的に教科書の内容が頭に入った。</li> <li>・今後、生活していくにおいてのレポートを書いたり、発表したりと、自分なりに考え伝える場面が多々設けられていたので、とても充実していて、金曜の2～3限だけは毎週楽しみだった。</li> </ul> <p>→今後とも、学生の自律性欲求、コンピテンシー欲求を考慮しながら、課題等により学生の理解を深化させることに努めていきたい。事前・事後学習時間が不足していることについては、学生により差があると考えられるが、レポートを増やすことも検討したい。</p> <p>教科書については、継続してブラッシュアップに努め、オリジナルの教科書の作成も検討したい。</p> <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの発表が毎回あるのが辛かった。お手洗いなどに行った時に当てられていないことになって出席が不安になった。</li> </ul> <p>→事前に学生への周知に努めたい。</p> <p>その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業形式がすばらしかった。すべての授業を集中してうけることができたのは初めてである。最初、毎回課題があると聞いて、嫌になりそうだったが、いつのまにか苦にならなかった。内容もほんとに勉強になった。</li> </ul> <p>→今後も授業形式、講義内容の改善に努めていきたい。反転授業については、合う学生と合わない学生がいることもわかった。今後工夫していきたい。</p>
災害の科学(水)	<p>良かった点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちに馴染みのある災害から触れて講義を進めたのが良かった。そのあとの専門的な知識も理解することが出来た。</li> <li>・レポートを書いたり、発表したりと、自分なりに考え伝える場面が多々設けられていたので、水害を自分事として考えることが出来た。とても充実していて、金曜の2～3限だけは毎週楽しみだった。</li> <li>・内容が面白かった。</li> </ul> <p>→オンラインなりの工夫を重ねたが、今後とも、学生の理解を深化させることに努めていきたい。事前・事後学習時間が不足していることについては、レポートや小テストを組み合わせることを検討したい。講義資料については、オンライン講義用に見直したが、継続してブラッシュアップに努めていきたい。</p>
地区・街区計画	<p>Moodleを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことで、一定の評価を得たものと理解しています。都市計画分野で最も高度な専門性を伴う科目の1つであったが、理解度も良好でした。</p> <p>次年度は、科目の実態によりいっそう即すことを目指し、シラバスの改訂を行う予定です。</p>
構造力学 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はオンライン授業のため、従来高評価を得ている個別の対応ができなかった。受講生の中には、高校で物理を履修していない場合があることから、理解レベルが様々であることが推測できる。限られた時間ではあるが、さらに個々の指導に力を入れていくことを心がけたい。</li> </ul>
建築計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、Teamsによる遠隔授業とし、PowerPointを画面共有しながら解説する形式で行った。従来は、プロジェクトでPowerPointを使用していたが、Teamsでは各自のPCで見ることができ、また、事後にも録画したものを確認できるというメリットがあるため、対面授業においても、Teamsを併用することを考えたい。</li> </ul>
インテリアデザイン	<p>今回の結果について、学生により、とても充実した経験となったものと、そこまででもなかったものとの二極化がおきてしまったかと考えている。対面での講義だと、模型を見せながら説明したり、学内で移動しての場所で解説することなど出来るのだが、今回はそれが出来ずマイナスとなったことは、正直、否めない。空間を扱い身体性伴う科目としてはきついところだ。来年度、対面での実施が出来ればと考えている。また逆に、事前の動画資料を提供しての方式でのメリットも実感でき、次年度も実施するようにしたい。「要点整理・内容整理」に関しては、画面共有したものをスクリーンショットをとり保存した学生もかなりいたようだが、とりそこなったことがあったと後で聞いており、この点はデータそのものをアップすることで改善策としたい。また説明もより丁寧なものとしてほしい。到達目標に掲げている[1]インテリアデザインに必要な基礎的知識を理解し、解説できる、に関しては、想定どおりマスターしてくれたようだが、[2][3]に関しては、受講生によるばらつきが生じてしまった。二極化したのをどう考え改善するかは悩ましいところだ。一番簡単な解決は単に講義科目であり、学生によっては数合わせで受講しているものもいることを考えると、知識の伝達として割り切り、[2][3]についての比重を落とすことが考えられる。1,2年での科目であればそれでもいいが、3年次の科目ということを考えると、あまりそのようにしたくないというのが正直なところだ。しかし、近年の受講生の学習力の推移をみると、そうもいつてられないような気がするが、、、やはり、二極化を避けるために、下の層を引き上げてやることを目指していきたい。今回、各回ごとでのフィードバックが不足してしまったので、それを充実させることで、改善することとしたい。(各回提出物に対して、コメント入れての返却)</p>
サステナブルデザイン	<p>Moodleを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことで、高い評価を得たものと理解しています。都市計画分野で最も高度な専門性を伴う科目の1つであったが、理解度も良好でした。</p> <p>次年度は、科目の実態によりいっそう即すことを目指し、シラバスの改訂を行う予定です。</p>
インタフェースデザイン	<p>授業のオンライン化の影響で、学内のインタフェース散策等の登校が必要な一部内容を変更して実施したが、受講生も変更に対して柔軟に対応してくれたため、特に問題は生じず、到達目標も概ね達成できたと考えられる。面接授業と比べて学生の理解度の把握が困難であったが、チャットを活用することで対面以上のコミュニケーションをとれる場面もあった。これらは従来の面接授業でも活用できる手段であるため、チャットは授業の道具として今後も活用したい。本科目で扱う各トピックに対してレポート等の課題を設定したが、授業外での学修時間がやや少ない結果であったため、課題内容の修正等を検討する。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画(事業構想学群)

科目名	授業改善計画
コンピュータグラフィクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は遠隔授業での実施に伴い、後半の授業内容については大幅に見直し、座学を中心にした内容に変更した。それにより授業の難度が上がった結果、理解度が若干下がる傾向が見られた。今後、適切なバランスを確保できるように調整を進める。</li> <li>・授業内での演習時間が減ったことから課題のウェイトが増加し、学生が不満に思うこともあったようである。またプログラミングが苦手な学生にとって課題に対応できない等の問題も生じており、今後は理解度の確保は維持しつつ、課題内容の見直しや学生をフォローできるように工夫したい。</li> <li>・課題については極力フィードバックを返すようにしたが、これについては学生のモチベーションに繋がったとの意見もあり好評であった。今後できるだけ学生との距離を縮めることができるよう配慮していきたい。</li> </ul>
ウェブデザイン	<p>オンライン化への対応として、オリジナルの教材システムを用いて、なるべく双方向な授業になるように心がけました。また、この講義では、毎回授業の終わりに受講レポートを記述する時間を設け、学習到達度を確認しながら進めています。来年度は最終的なプロトタイピングの技術的指導の時間確保を少し多めに確保します。</p>
感性情報デザイン演習Ⅱ	<p>今年度の演習は遠隔授業となったことにより、事前に設定している到達目標に対する学修到達度が下がる懸念があったが、学生のオンライン学修への取り組みも積極的であり、予定した到達目標を概ね達成することができた。</p> <p>授業評価の自由意見の中では、個人での課題の取組みが難しいことや質問しづらいことも問題として指摘されており、今後、遠隔授業を取り入れていくにあたって対面授業の実施を適切に行うとともに、オンラインでの課題制作に関する理解度や問題の把握がより容易にできるよう工夫していく必要があると考えている。またプログラミング学修においても、オブジェクト指向プログラミングの指導の必要性等の指摘もあり、引き続き授業計画・内容・指導方法の改善を図っていきたい。</p>
情報サービスデザインⅠ	<p>英語の教科書を用いたため、大方の評判はよくなかった。内容に入る前の英文解釈で時間を取られてしまった。ポジティブなフィードバックが一件あったものの、来年度は日本語の教科書を用いたい。</p>
フィジカルコンピューティング	<p>授業のオンライン化の影響で、一部の回の順番を入れ替えて授業を実施したが、概ね授業計画どおりに授業を実施できた。本科目は受講生がマイコンやLED等を使用して電子工作を行う回があり、学生の理解度や制作の進捗状況の把握が困難であったが、チャットやビデオ通話を活用して可能な限りのフォローを実施した。今後もオンライン授業が継続される場合は、最適なフォロー方法を改めて検討する必要がある。授業に関して受講生からネガティブな意見は寄せられていない一方で、分野への関心の高まりやスキルが獲得できたという意見が寄せられており、今後も継続して授業内容のブラッシュアップを図ってきたい。</p>
エンタテインメントデザイン	<p>今年度の授業では遠隔授業がほとんどとなり、当初授業計画の一部を変更せざるを得ず、カードゲームを用いた実習機会が少なくなる点で残念であったが、ディスカッションを効果的に交えることにより、授業評価では概ね好評な結果を得ることができた。</p> <p>来年度の授業計画が遠隔・対面いずれになるか判断がつかないところであるが、実習やディスカッションの適切な配置により、より学生の関心を高め、効果的な授業展開を進めていきたい。</p>
グラフィックデザイン	<p>改善点に関する意見を真摯にうけとめ計画に反映していきたい。また創作的課題について理解してもらうよう説明を丁寧におこないたい。本授業によりポートフォリオを充実させ目的を達成(クリエイター職内々定)した学生も少なくなく本授業における成果品の利用法についての周知を徹底したい。</p>
デザインマネジメント	<p>概ね良好な結果が得られたものと考えている。今後も課題について理解してもらえるよう説明を丁寧におこないたい。</p>
プロジェクトマネジメント	<p>後半駆け足になってしまったという要改善点の指摘があった。進捗管理はプロジェクトマネジメントの要であるから面目ない。来年度はそうならないようにシラバス通りに進めたい。</p> <p>演習をやりたいという要望もあったが、これは難しい。知識がないところで演習しても混乱するだけである。まずは半期の講義で知識をしっかりと身につけてもらいたい。演習はその後の話である。その意味でこの科目はもっと早く、できれば2年次に行うことが望ましいが、現状のカリキュラムでは無理である。</p>
生活環境デザイン演習Ⅱ	<p>・本来実際の作業を行いながら、個別指導を進める演習であるが、今回は遠隔授業で、「全体で行うプレゼンテーションと講評」「グループ単位で行う個別指導(エスキス)」を組み合わせた。いずれも、毎回各自の作業結果をオンライン上で提示しながら指導を受ける必要があり、従来と比較して作業精度が高かった。また、全ての履修生が他の学生の提案内容や指導内容などを視聴することができるというメリットもあった。今後は、遠隔授業、対面授業のいずれにおいても、発表や他者の指導の様子などを閲覧する機会を増やすことで、より多くの情報を得られるような工夫を行いたい(遠隔授業の活用、遠隔・対面授業の組み合わせ方なども含めて)。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
有機化学	<p>対面授業を前提にして計画を立てている。次年度は教員による説明と、学生がグループ単位で演習に取り組む部分を組み合わせながら授業を展開し、当該科目が暗記中のものではなく、自らの考えることが重要であることを実感できるようにする。また、受講学生の理解度を把握しながら、より丁寧な説明を心掛ける。</p>
経済経営学基礎	<p>2020年度前期に開講した「経済経営学基礎」は、川村教授と紺屋講師が担当した。今期は新型コロナウイルス感染症対策のため遠隔授業方式で実施することとなり、川村は主に時間割どおりの時間にリアルタイム配信で、紺屋はオンデマンド配信で行った。</p> <p>各回に簡単な質問に回答してもらったりして、期末には期末試験に代える形でのレポート課題を課して、それらの結果により成績評価を行ったが、概ね妥当な成績の分布状況となっている。学生による授業評価の結果を見ると、いずれの評価項目でも全学の平均値を下回っており、授業の改善の必要性があると認識している。記述式のアンケート回答の内容を見ると、授業は分かりやすいという評価があることを反映してなのか、授業以外の学習時間が平均値より低いことは特に重要な問題であると認識している。</p> <p>次年度以降の授業が遠隔方式になる・ならないに係わらず、事前学習・事後学習を促すような手立て（例えば事前学習用のプリント配布など）を強めたいと考えている。</p>
食材生産・加工実習Ⅰ	<p>検証：今年は新型コロナの影響で、実質的な実習ができなかった。遠隔での実習は、極めて教育効果が低いと考えられる。したがって、内容についての検証はできない。</p> <p>改善点：来年度は実習ができるものとして、昨年の改善点を挙げておく。</p> <p>1、実習や課題の意義を丁寧に伝えるように努める。2、質疑応答の機会を増やし、学生の「思い」を早期に把握する。3、実習は「体感」を重視する側面を明示する。4、天候その他の事情により、あるいは旬の話題や内容を盛り込んでいる点を明確化する。5、レポートについては各担当教員が評価基準を明確化する。</p>
応用情報処理（食産）	<p>オンラインでの実施であったが、演習を中心とした内容であり、小グループによる発表会も実施した。おおむね好評であったので、今後もこのような機会を設けて実施していきたい。</p>
キャリアデザインⅡ（食産）	<p>"キャリア"を考える際に、"自己選択権"と"自己決定権"は大切です。多種多様な情報を用いて、自らの職業を選択する際に論理的な手順として、"キャリア・プランニング・プロセス"があります。その中でも、低学年である今は、"データベース"を構築する時期として、その分野の第一線で活躍されているファイナンシャルプランナーや男女参画財団、卒業生に外部講師として登壇頂きました。社会理解を深める事ができ、将来像をイメージしやすくなった方も多くいました。また、キャリアの理論を用いて"働く"を多方面から紐解く事で、"働く"を"自分事"として考える機会を多く提示できたと思います。今後も、"データベース"が構築でき、職業観が深められるような授業展開を行います。</p> <p>また、遠隔講義という事で、一方方向の講義内容時もありました。今後、遠隔講義をする際は、アンケート形式やチャットなどを活用し、双方向の講義にするよう工夫したいと思います。</p> <p>そして、インターンシップ参加率増加や就職活動の早期化に対応するため、就職活動のノウハウも伝えていきたいです。</p>
インターンシップⅠ（食産）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、数名のチーム単位で約30社の地元企業を訪問し「企業の魅力・人の魅力」をテーマとするパワーポイントによるプレゼンスライドを作成していましたが、今年度はコロナ感染防止のため中止とし、代替案として先輩が作成したインターンシップ訪問スライドを用いて約20社の企業研究を実施しました。そのため、課題が多くなり、学生によっては負担が大きかったという意見も見られましたので、今後注意していきます。</li> <li>・授業外の事前・事後学修の時間が平均より少ないので、予習や復習など課題に対する考察時間を考慮していきます。</li> <li>・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。</li> </ul>
食料・農業・農村政策	<p>今回は、新型コロナの影響からすべて遠隔授業になったこともあり、対面であれば伝わっているかどうかを確認しながら授業を進行できるが、それができなかった。そのため、formsによるコメントカードを回収し、その反応を伺って次回の講義の準備とした。コメントカードが例年になく積極的に書かれており、その回答に時間をかけ大切にしたい。それは、ある学生の疑問は他の学生の疑問であるからである。</p> <p>概ね1/3を回答時間にあてることとしていたが、その回答が延びて1/2程度になったこともある。残念ながらどこが適切なかは、学生の顔が見えないため、区切ることが難しかった。</p> <p>たしかに、授業の本論が短くなってしまったとのコメントも多数見受けられ、授業の進行に期待していた学生も少なくなかったことがわかったが、しかしながらこの遠隔授業の形式を取った時落ちこぼれを作らないためには丁寧に分からなかったところを説明してあげるという対応措置も必要で、今回は後者に軸を置いたところである。</p> <p>この点が今回行った授業の長所でもありまた短所でもある</p> <p>授業をよく理解した学生にとってはくどい説明であることもあるが、よく理解していない学生にとってみたら、その説明によって理解が進むという側面もある。難しい問題だ。ただし私も進みが遅いことが不満点として感じており今後は解消に向けて努めていくことを考えている。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
キャリア開発Ⅱ（食産）	<p>「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」では、自己理解、社会環境理解。「キャリア開発Ⅰ」では、職業選択を意識した業界・企業研究などを伝えてきました。この「キャリア開発Ⅱ」では、これまでの学習、知識を踏まえ、インターンシップの選考化や就職活動の早期化に対応すべく、求人票の見方、履歴書の書き方基礎、ビジネスマナー講習、適職診断などを実施しました。また、第一線で活躍されている卒業生にも登壇頂き、職業選択のポイントを伝えて頂き、多くの学生がプラスの将来像を持つ事ができたと思います。</p> <p>遠隔講義という事で、一方方向の講義内容もあったかもしれない。今後、遠隔講義の際は、チャットやアンケートなどの機能をもっと活用し、双方向の講義を目指します。なお、気持ちを引き締めるため、講義の始まりと終わりに、挨拶（お辞儀）を実施しましたが、学生からは好評でした。フォーマルな挨拶を”習慣化”できるよう、後期の「キャリア開発Ⅲ」でも実施します。また、ビジネスマナー講習は対面式の方が効果があったと思われるため、こちらも「キャリア開発Ⅲ」で改めてビジネスマナーを確認します。</p> <p>今後も、「キャリア系科目」と「インターンシップ関係科目」で連携をとり、学生が自身の進路や、将来のキャリア形成に対し、不安にならず落ち着いて”自己選択””自己決定”できるような知識とスキルを身に付けられるような講義展開を目指します。</p>
インターンシップⅡ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、夏休み期間中に「①各自の専門性を活かせる研修先の企業・機関が主催するインターンシップに応募し研修を行う。また、②学群教員が提供する研修先、研修プログラムで研修を行う。」という2パターン of インターンシップを提案していましたが、今年度はコロナ感染防止により②を中止とし①のみとし、自ら公募型インターンシップに申込をすることを単位条件としました。オンライン講義という視点から、学生にとって重圧に感じないようにライブ配信の上、録画によるオンデマンド視聴も可能にしたことで、リアルタイムで講義を受けない学生も多々みられたので、今後改良していきます。</li> <li>・授業外の事前・事後学修の時間が平均より少ないので、予習や復習など課題に対する考察時間を考慮していきます。</li> <li>・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。</li> </ul>
フードコミュニケーション	<p>昨年までの対面授業の中では行うことがなかったが学生から今後の継続を求められた、授業中のアンケート（投票機能）と結果の共有、リアルタイムコメント共有アプリ、講義録がの提供などは、今後の授業環境下での継続方法を検討する。改善点として授業時間のオーバーは、遠隔授業における機材や通信トラブルでの時間ロスが主因であり、対面授業では生じにくいと思われるが、時間配分に十分注意して発生防止に努めたい。</p>
食材生産概論	<p>この授業に関して良かった点として、様々な知識が得られてよかった、動植物の生産について興味を持ちながら学ぶことができた、実際の写真を用いて説明したことなどが挙げられており、引き続き食材生産に関する必要な知見に関心を持てるような授業を心がけたいと思います。一方、今回オンラインで行われたため資料を印刷すると紙やインクの負担が大きくなるのでスライドの枚数を考慮して欲しい、課題が多いとの指摘がありました。</p> <p>1. 事後レポート 履修ガイドにあるように、授業科目「1単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて45時間の学修時間により構成されることを基準としているので、この授業で設定されている事後学修は妥当なものと考えています。</p> <p>2. 紙やインクの負担 今年度は例年にない状況だったので、来年度以降は対面での授業ができるように努めたいと思います。</p> <p>改善策等： 今年度、初めての遠隔授業でしたが、来年度は対面での授業を中心に、オンライン授業で培ったノウハウをプラスして、双方向の授業を強化していきたいと思います。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
生物生産環境学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義のスタイル 対面/オンラインどちらでも対応できるよう改善をすすめる。特に、オンライン講義では、適宜各教員が学生に対して積極的に質疑ができる雰囲気作りを行う（会話形式のように学生への問いかけを増やすなど）。</li> <li>・ 学習環境の確認 パソコンや通信環境などの整備の差が個々で大きいため、オンライン講義実施の場合は、事前に受講予定者には学習環境の調査し、対応する。</li> <li>・ 講義内容の周知 当講義は、基礎から応用（具体例・先進事例）が含まれるため、ガイダンス時（第一回）に授業構成とそれぞれの関連性について明確に示す。</li> <li>・ 講義内容 先進事例の理解には、事前に現在の情報通信技術の理解も必要のため、基礎的な情報通信関連の内容を講義に追加する。</li> <li>・ 事前事後学習に関して 他の講義と比較しても事前事後学習時間が短かったため、事前課題を作成、事後課題の難易度を上げるなどを行う。また、課題の提出方法も担当者毎に異なったため、一本化する。</li> </ul>
食材生産経営学	<p>「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思います。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。</p> <p>タクシー運転手の給料の決め方、アイスの販売方法等の実例を挙げた講義が好評だったので、そういった内容を増やしていきたいと思います。また、レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。</p>
植物病理学	<p>科目の特性として覚えることが多く、内容が多岐にわたるため、指定した教科書をベースに、さらに要点をわかりやすくまとめたプレゼン資料を用いて説明する。病気の症状などをイメージをしやすいように、写真をさらに多く提示するように努める。今年度と同様に毎回の小テストを実施し、随時理解度を確認するとともに、予習課題の導入も検討する。履修の仕上げとなる「病害診断プレゼンテーション」を充実させるため、今年度と同程度の検体数と発表時間を確保する。また学生同士が議論をする時間を増やすことにより、より深く考えさせる。また同時期開講科目である植物性食材生産実験実習Ⅰと連動した講義内容（項目順）となるように調整し、講義と実習の同時学修により、植物病理学の理解を深める。</p>
植物遺伝育種学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p><b>【良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストを行い、演習レポートを他のレポートに配慮してくれたこと。</li> <li>・ ホワイトボードを使った説明もあったためわかりやすかった。</li> <li>・ 毎回、出欠キーワードがあったり、moodleで考えたことを提出したりする方式は良かった。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝について難しいこともあったが、他の講義でも関連している部分も多く、理解が深まった。</li> <li>・ 分かりやすかったです</li> </ul> <p>→今後もみなさんからの意見を聞きながら、授業を改善していきます。</p>
植物性食材生産学Ⅰ（食用作物）	<p>本授業では食材の中心となる食用作物についてより関心を持ってもらうため、できるだけ実物を見たり触れたりできるようにしていましたが、コロナ感染症拡大の影響で全て遠隔授業となり実物を見てもらうことができなくなりました。その分、レジュメ作成の際に写真を多くしましたが、分かりやすいとの声があり、今後も工夫していきたいと思います。</p> <p>今年度は初めての遠隔授業となり、マイクロソフトのFormsを使用しましたが、これまでの対面授業ではない双方向のやり取りができたので、次年度以降も様々なツールを取り入れて学びやすい環境を整えていきたいと思いをします。</p>
動物繁殖学	<p>授業が難しいと感じる学生がいたようです。内容を精査して減らす方向で考えます。また、復習よりも事前学習に多くの時間を取れるように、授業のプレゼンファイルを早めに見られるようにします。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
動物遺伝育種学	難易度に変更することはせず、より高めます。しかし、よりわかり易く実践的な講義展開を心掛けます。また、図や写真などを用い、理論をイメージしやすい形式になるように工夫します。理論の解説には数学的技術や知識、数式を用いて展開し、よりレベルを上げ、難易度を高めますので、学生さんには一層の勉学への努力を求めます。
動物性食材生産学Ⅱ（肉）	<p>検証：昨年は開講1年目であったことから、多くの意見が出された。しかし、今年度は、遠隔であったことからか、改善してほしい点への記載は全くなかった。評価もほぼ全学平均より少し高く推移している。</p> <p>改善点：今回は遠隔での授業となったが、対面（昨年）よりも評価は高かった。したがって、来年からは対面でできると思うので、遠隔での良かったところを検証し、取り入れていきたいと思う。</p>
植物生産基礎実験Ⅱ	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p><b>【良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでしたがオンラインでも実験、考察の流れができるんだなと感じた。</li> <li>・実験をオンラインでやることは難しいと思うが、レジュメの適切な説明、スムーズな進行により理解が深まった。</li> </ul> <p><b>【改善した方がよい点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔なので、実際に実験道具などを使用できなかったのが勿体無いと感じた。</li> </ul> <p>→次回は、十分なソーシャルディスタンスを図り、対面での実習を行います。</p> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に主体的に実験が行えないため、時間が3時間とあり、すこしきつかった。要点をまとめて進めれば非常に受けやすいと感じた。</li> <li>・実験教科はあまり遠隔授業でやらないほうが良いと思う。</li> <li>・普段の実験とは違う作業が多く、実験についてより知ることができた。</li> </ul> <p>→オンラインでも十分な学修が行えるように、プログラムを変えました。その中のPCを用いたデータ解析は、今後の研究活動では大切な実験手法になるはずで、今回の実習をきっかけにして、PCによるデータ解析に慣れてもらえるとうれしいと思います。</p>
分子生物学	<p>わかったつもりで終わりにせず、確実に説明できるところまで自主学習をしてもらいたい。毎回の自主学習を十分行わないと最終的に目標に到達できない場合が多いということを、講義の初めに強調したが、来年度もよく説明したい。また、次年度は対面授業に戻ると思われるので、理解度をできるだけこまめに確認するようにしたい。（森本）</p> <p>さらに望むこととして、講義内で解説した部分や配布した資料のみにとどまらず、講義での内容をきっかけにして、さらなる自学自習を行い理解を深めていくような日々の予習復習を行う勉学法を実践することを望む。そうすることで、断片的なの暗記だけではなく、分子生物学の多くの知識は繋がり、以後の学びに繋がる。次年度以降もよりわかり易い講義を心掛け、以後の学びに繋がるような工夫をしたい。（須田）</p> <p>毎年、講義2回あたり1回の小テストを行い、こまめに復習を行うようにしている。しかしながら、学生を見ていると、講義で示した説明を一字一句間違えないように覚えてくることが学習と思っている節がある。このままでは、あまり理解が深まらないように思う。次年度は、小テスト、本テストの出題の仕方等を検討し、準備を通して講義内容の理解を促したい。具体的には、小テストは覚えることを主に、本テストでは考えて自分の言葉で答えなければならないような出題形式への変更を考えている。（岩井）</p>
栄養科学	今年度は遠隔授業であったが、毎回の「振り返り」で食生活や健康に関する多くの質問・意見があり、授業への参加度が高く望ましい結果となった。質問内容も非常に興味深いものが多かったため、できるだけ口頭で解説をしようとした結果、特に内容が多い前半では、一部授業時間が押すこともあったが、後半に予め調整時間を持たせてあるため、必要なことはすべて講義することができている。質問に対する解説を絞るべきとの意見もあることから、今後はさらに調整したい。栄養科学は、授業内容が多いため、スライド・資料の情報量も多くなりがちである。重要なところは色を付け、口頭でも強調しているが、一部重要な部分が分かりにくいとの意見もあったので、さらに改善していきたい。



## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食産業政策論	Zoomの投票機能とその結果の共有、リアルタイムコメント共有アプリ、Zoomのブレイクアウトルームによるグループワーク、資料の事前アップと講義録画のアップなど遠隔授業で試行した講義手法で学生から良かったとのコメントが多かったものについては今後の授業の中でいかに実現するかを検討する。
企業倫理	1～3年生の科目を履修した後であり、就活と重なる時期だからこそ、講義で話す内容と実際に就活で直面する状況を総合的に考える機会になる科目です。卒業前に大学で考え方の幅を広げておくことにより、企業研究を行う際の視点や、実際の面接など、さらに就職「後」の各種の打合せなどにおいて、ビジネスとはいえ譲ってはいけない倫理的な視点を習得する機会になると考えています。そのため、来年度以降も古い話から最新の話まで、様々な事例を用いて基本的な企業倫理の視点を紹介していく予定です。「切り口」を習得できれば、その日から判断が可能になりますが、知らないままではもやもやしたままで時間が経過しますので、4年生の就活時期だからこそ、考え方を整理してみましょう。
食感性科学	学生評価によると、どの項目も平均点を大幅に上回っている。特に、「教材と説明の適切さ」・「知識、技術等役立、関心」・「授業の要点・内容の整理」・「学生自身の授業目標到達度」については、どれも全授業の平均値より10ポイント以上高い。よってこれらの項目については、次年度も同様の内容を行う予定である。一方で、「授業外の学習時間」に関しては、全授業の平均値より1時間程度低かった。次年度は、各回で課題を出すまたは中間レポートを課す等して、授業時間外の学習時間を増やしていきたい。自由記述をみると、「図や例がわかりやすかった」、「コメントスクリーンがよかった」、「実験の結果を考察しながら実生活で役立つことが学べた点良かった」、「説明がとてもわかりやすく、丁寧に興味がわくような教え方でした」といったコメントがあった。改善した方が意見・その他の感想としては、「4年生で学ぶのがもったいないと思いました」、「実際に対面で食感性の効果などを体感したかった」、「心理学と食の組み合わせは奥が深いなと感じました。商品開発にも生かせる内容がたくさんあり勉強になりました」、「もっとお話をききたいです」という意見があった。こうした学生の意見を参考に、対面授業をより取り入れる等して、双方向的でより充実した授業を展開していきたい。
水資源利用学（食産）	<p>この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で調べた内容を発表したり、人の意見を聞く機会があつてよかった。また、授業の内容も事例と合わせて説明してもらえて分かりやすかった。</li> <li>・楽しい授業の一つでした。理解が深まり、主体的に取り組み授業以外の能力も少し身についたと感じています。</li> <li>・学生主体の授業スタイルが非常に魅力的であった。質問時間に指名することで、質問者の発表者への理解、発表者の質問を予測し、対策する力が身についたと感じる。</li> <li>・発表して、フィードバックまでもらえるところが良かった</li> </ul> <p>→オンラインということもあり、対面授業以上にアクティブな授業運営を心がけた。今後もこの手法を継続していきたい。一方で、使用した教科書については、若干レベルが低いとも考えられるため、オリジナルの教科書の作成も検討したい。</p> <p>改善した方がよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はずっと聴いてるだけだったので、眠くなった。</li> </ul> <p>→授業参加学生には、毎回レポートを課し、その発表・質疑応答・コメントバックを行った。講義を聴いているだけというのは当てはまらないと考えるが、課題を提出せず聞いているだけの学生にとっては、授業に「参加」できないという点で辛かったとも考えられる。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい授業の一つでした。理解が深まり、主体的に取り組み授業以外の能力も少し身についたと感じています。</li> </ul> <p>→今後とも授業形式、講義内容の改善に努めていきたい。反転授業については、合う学生と合わない学生がいることもわかった。今後工夫していきたい。</p>
動物発生工学	授業以外の学習時間が持てるように、毎回の振り返りレポートや課題を出して学修の機会を増やしていきます。
水棲動物学	目標到達できる内容、難易・進度の適切性、授業計画のわかりやすさ、学生自身の授業目標到達度、教材と説明の適切が平均値を下回ったことは残念である。内容がかなり専門性が高く難しかったことが原因と考えられる。次年度は内容を見直して、分かり易く、より良い授業としていきたい。
水棲植物学	目標到達できる内容、授業計画のわかりやすさ、学生自身の授業目標到達度、が平均値を下回ったことは残念である。内容がかなり専門性が高く難しかったことが原因と考えられる。次年度は、目標到達できる内容等に工夫を凝らして授業を改善していきたい。

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品衛生学	<p>次年度は、対面授業を前提に授業計画を立てている。</p> <p>当該科目は、食品の安全性に関わる技術的な事柄について学ぶ内容である。このため、食中毒菌の名称や生育条件など、基本的な事項についてはある程度暗記が必要である。例年、基本的な知識の定着を図るため、ミニテストを実施している。このことが事前・事後の学習を促すことにつながり、期末試験においても比較的高得点を得るにいたっている。次年度においても、例年の通り毎回の授業の中でミニテストを実施しながら知識の定着を図る。また、最新を話題などを調査するためグループワークによる調査プレゼンテーションも実施する。</p>
食料経済論	<p>昨年度までの授業では、各回の最後にコメントカードを書いてもらうことで理解を促すと共に学生からのフィードバックを得たが、遠隔授業となった今期の授業では、各回に簡単な課題を課しながら授業を進めた。課題により復習の効果があつたように思われるので、次年度以降も適宜、課題を課すようにする。</p> <p>アンケートの中の改善点としてブレイクアウトセッションの時間が短かったという指摘があつた。今期の授業は初めての遠隔授業であり、ブレイクアウトセッションの使い方に慣れていなかったという事情もあるので、遠隔授業で使えるソフトの各機能についての習熟度を高めて、次に遠隔授業を行うことになった際に備えておく。</p>
食品流通・情報論	<p>遠隔授業により学生達が対面授業に比べてより能動的にディスカッションやプレゼンテーションなどに参加できるような方向性で進めることが必要であると思われる。</p>
食品企業経営戦略論	<p>今年度は、遠隔授業初年度でもあり対面と同じ内容を遠隔で実施しましたが、当初はお互いに試行錯誤、途中からは何となく話すだけ聞くだけになったパターンが生じてきた気がします。雑音に惑わされず、集中して聴いていた方もいれば、適度に息抜きをしていた方もいたのではないかと推察します。回線の問題もありますが、どこまで教室講義で保てた緊張感が維持できていたのかわからない中では、皆さんを信頼して続けるしかありません。そのためには、シラバスで指示した内容について、やはり一定量の予習をしっかりと行い、テキストを読み込んで頂くことが必要です。</p> <p>来年度も遠隔講義が継続するようであれば、毎回の講義途中での理解度チェッククイズのようなものを導入することも検討していきたいと考えています。また、従来は試験を実施していたため、試験準備を行う中で全体を復習するという機会がありましたが今年はレポートでした。それなりのレポートも出ていますが、どうしてもレポートの場合には一定の幅にならざるを得ないため、新型コロナウイルス感染症の動向を見て、可能な限り試験の方向に戻していきたいと考えています。</p>
フードシステム調査演習	<p>この授業は、演習として学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートするもので、本来であれば対面によって十分な効果が得られるように予定されたものである。しかしながら今般の新型コロナ対策により、すべての回を遠隔授業で実施した。</p> <p>学生は、こちらからの指示のためPowerPointをPC状の画面に映しながら、同じ画面で演習のためのExcelを操作することになる。1つのパソコン上位で、しかも画面の小さなノートPC1台では、極めて困難な作業だったと思う。これらの操作を1台のPCで行うと、その切り替えにCPUやメモリのパワーを食い、時間がかかることに加えPC自体が不安定になる。事実、授業終了後のアンケートでも、PCの不調を訴える学生がいた。</p> <p>また、授業開始当初では、スマホによる視聴もあった。これは現実的に演習の実施が困難であり、その後にはPCでの視聴に変えてもらったが、やはりこの授業の難しさの一つとしてあげられることであろう</p> <p>演習として実施するのであれば、できる限り対面での実施がこの授業の本分だろう。学生それぞれの進行具合を見計らいながら、さらに躓いているところを丁寧に作り上げることで、全体を底上げしつつ、進行を図っていくことで学習の到達目標を達成するというのが本来の目的であるが、今回は暫定的なものとして実施せざるを得なかった。来年度以降再び対面での授業が実施できることを期待したい。</p>
フードサービス産業論演習	<p>アンケートを見ると大部分の項目で平均を上回っている。ただ、授業外の学習時間だけが下回っている。今回は実習をするのも新型コロナウイルスの関係で外食が大きな影響をうけており、また、遠隔授業もあり中間テストなどの実施も出来なかったことも影響していると考えられる。今後は、遠隔授業でも学生同士のディスカッションを設定するなどの工夫をすることで事前準備、事後の反省の時間を作れるような形にしたい。</p>
フードシステム解析演習	<p>計量経済学、オペレーションリサーチ、多変量解析等は、難しく感じるかもしれませんが、実際にデータを手にとって、いろいろと分析してみると楽しいものです。理論と実践をいったり来たりしながら、フードシステムに関わることにも興味を広げてほしいと思います。分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるように演習の中身を改善していきたいと思います。</p>
食品貯蔵・流通技術論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方は概ね問題ないと判断できる。次年度の授業形態が遠隔か対面かに依るが、より理解度の深まる内容とする。</li> <li>・集中講義については賛否があり次回は変更しないが、少なくとも日程はできるだけ早く告知・確定を行う。</li> <li>・食品に関する基幹技術なので、より身近に感じてもらえるよう入口の工夫を行いたい。</li> </ul>
ローカルフードシステム論	<p>今期はオンライン授業でしたが、オンデマンド配信については賛否両論がありました。質問は受け付けていたが、そのことがうまく伝わっていなかったようなので、次年度ではこのようなことがないようにします。</p>

## 令和2年度前期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
ライフステージ栄養学	アンケート結果として、「ライフステージごとに学んだり、栄養について学ぶことができてとても良かったです」、「子どもの発達に関して詳しく学べた事」、「人が生きていくステージによって必要な栄養素を知ることができた」、「資料や説明が分かりやすかった」、「遠隔授業の中で学生にとっても気を配って進めてくれました」、「就職活動にも気をかけてくださり、とても嬉しく、気兼ねなく、就職活動をすることができました」などの評価された点は良かったと思います。ただ、今年はコロナ禍での遠隔授業であったこと、就活中の授業であったことから、どこまで理解しているかの判断が難しかったと感じました。次年度は、対面授業で実施し、よりきめ細やかな講義として行きたいと考えております。
解剖・生理学	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。課題レポートでもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。
食産業・政策史	<p>いつもであれば、本講義は就活期間と全くかぶってしまい、出席できている学生も連続して受講できる状況ではないが、今回は毎回出席でき、十分な授業成果が上がったと考える。また、遠隔授業による少人数講義なので、質疑やこちらからの疑問など、アクティブ・ラーニング的なことを積極的にとり入れた授業の進行ができた。</p> <p>食の歴史の基礎的な部分と歴史的な思考に関する部分について、よく伝えられたと考えている。</p> <p>毎年なかなか、戦後史への言及ができなかったが、他の授業にこのことは回して話した。改善点としては、話にもよるが、話を1回完結にするなど工夫を考えたい。</p> <p>大学で歴史を学ぶことの意義は、出来事の羅列や物語にあるのではなく、人と社会を動かす「力」を理解することなので、その大きな「力」が理解できるようになることを目標としている。レポート課題は、ネットなどを調べれば一つのことしか出てこないが、実はそれにはいくつもの考え方があって、自分で考えなければ書けないものを出题することになっている。その結果、レポートをみると自分の頭を使って書いてきていたので、方針としてよかったと納得している。</p>